



ユニプレス株式会社 2021年度決算報告

2022年5月20日 代表取締役 社長執行役員 浦西 信哉



UNIPRES CORPORATION



2021年度決算について

2022年度見通しについて

中期経営方針

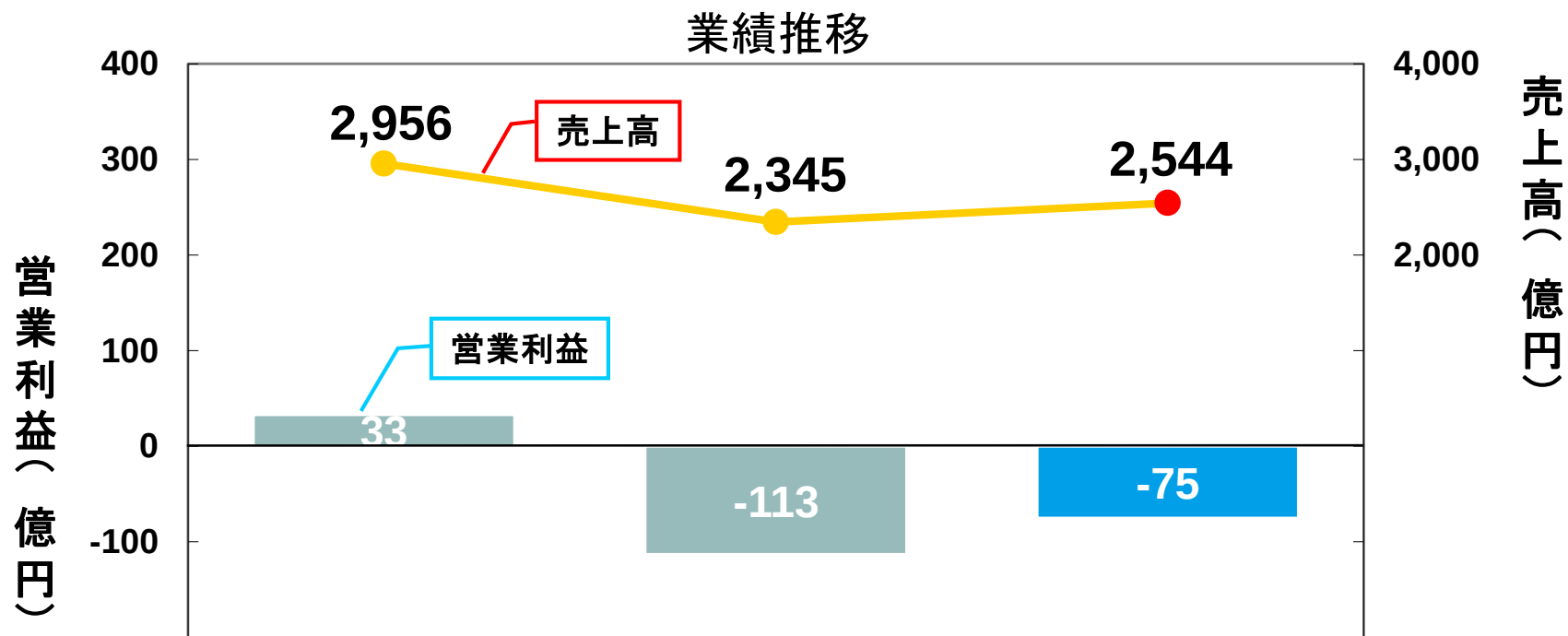


2021年度決算について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響からは脱しつつあり、
為替換算影響があったものの、半導体の世界的な供給不足による
得意先の大幅な減産の影響により、売上高は2,544億円にとどまり、
営業利益は75億円の損失

2021年度連結決算サマリー

- 売上高は、前年同期比199億円増収（8.5%増）
- 営業利益は、前年同期比38億円の改善



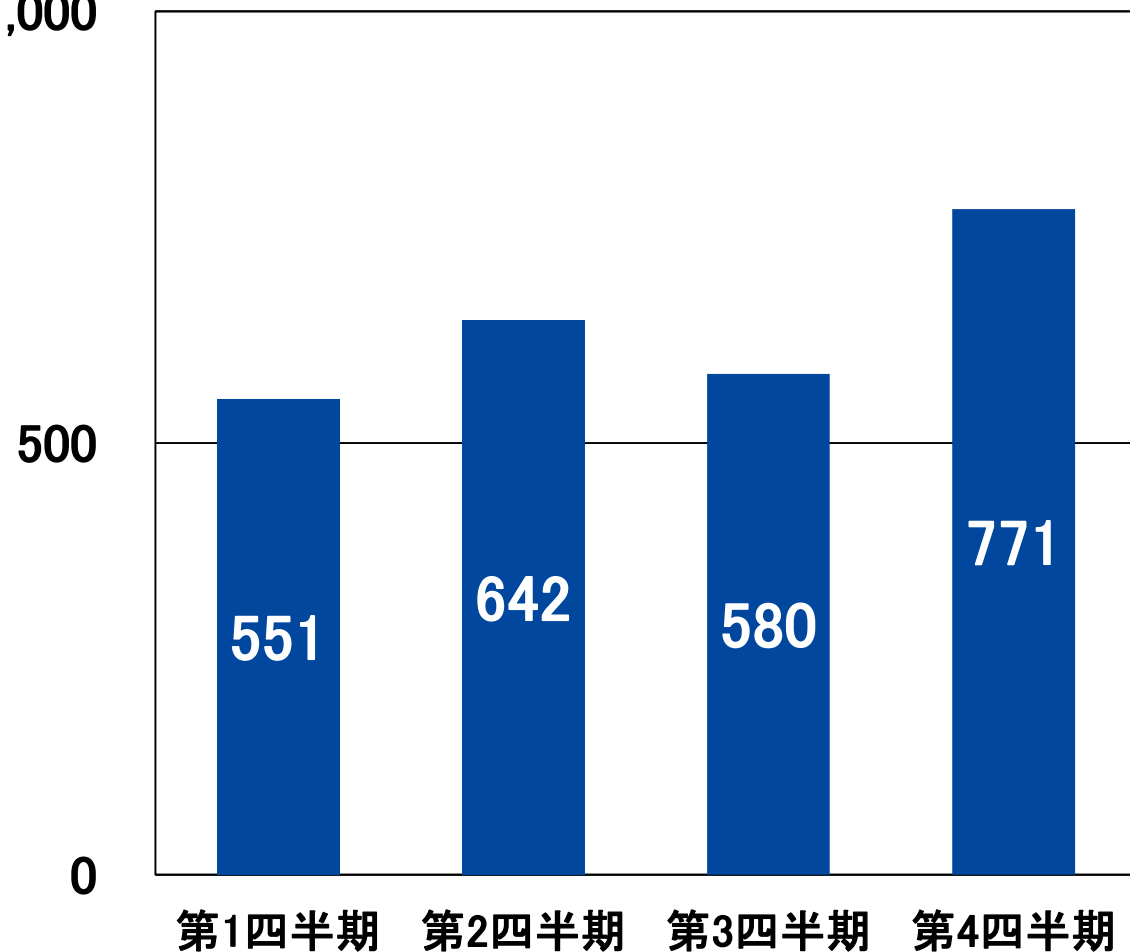
	19年度	20年度(A)	21年度(B)	(B)-(A)
売上高	2,956	2,345	2,544	+199
営業利益	33	-113	-75	+38
経常利益	34	-91	-47	+44
親会社株主に帰属する当期純利益	-39	-176	-79	+97

2021年度連結決算(四半期別)

- 通期では損失となったものの、第4四半期は黒字に転換

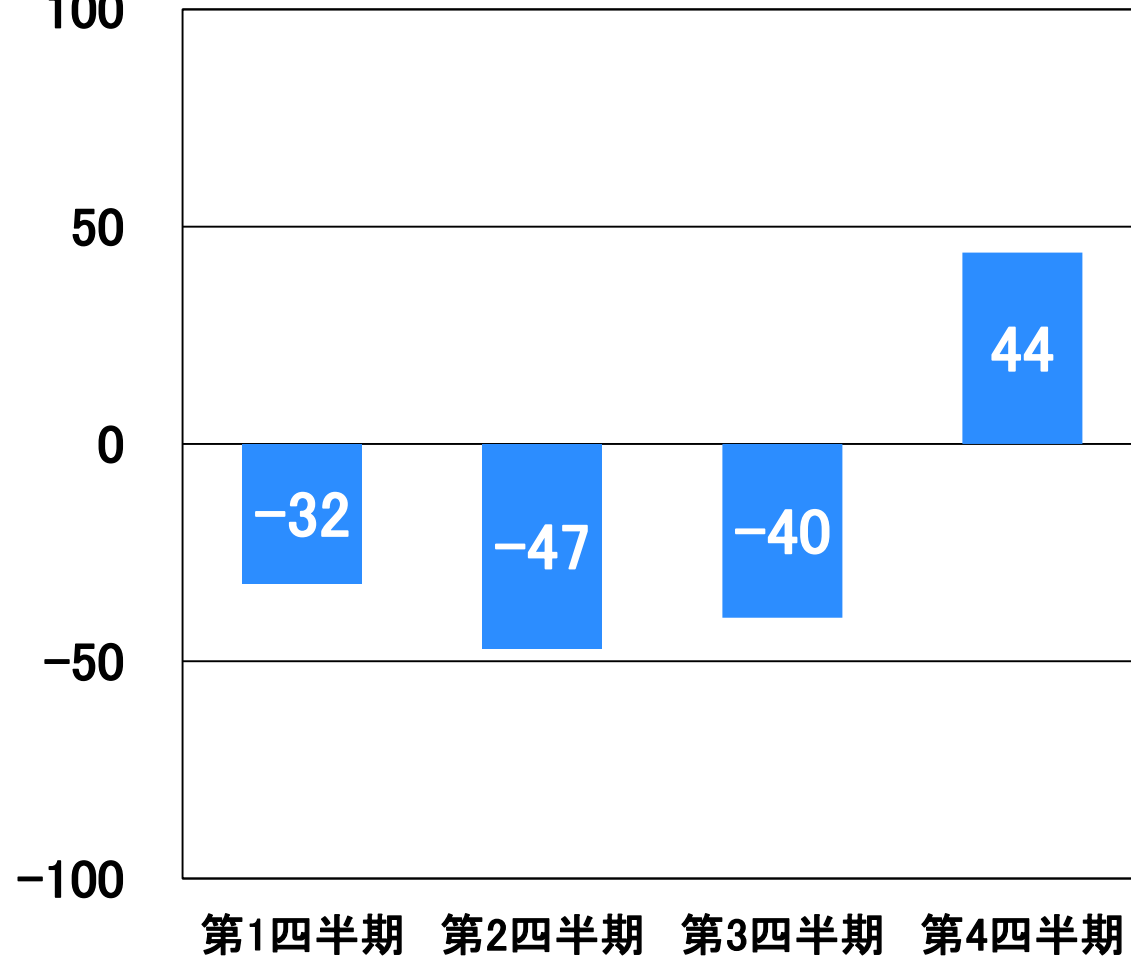
(億円)
1,000

【売上高】



(億円)
100

【営業利益】



製品群別連結売上構成

(億円)

	2020年度		2021年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	1,959	83.5%	2,177	85.6%	+218	+2.1%
トランスミッション製品	331	14.1%	317	12.4%	-14	-1.7%
樹脂製品	30	1.3%	31	1.2%	+1	-0.1%
その他	25	1.1%	19	0.8%	-6	-0.3%
合計	2,345	100%	2,544	100%	+199	—

得意先別連結売上構成(日産自動車関連)

- 日産自動車およびメキシコ日産向け売上の減少等により、構成比0.8%減少

(億円)

	2020年度		2021年度		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	1,912	81.5%	2,053	80.7%	-0.8%
東風汽車	459	19.6%	558	21.9%	+2.3%
北米日産	271	11.6%	319	12.5%	+0.9%
日産自動車	349	14.9%	307	12.1%	-2.8%
ジャトコ(海外拠点含む)	248	10.6%	243	9.6%	-1.0%
メキシコ日産自動車	256	10.9%	227	8.9%	-2.0%
欧州日産自動車	110	4.7%	190	7.5%	+2.8%
日産車体	82	3.5%	75	2.9%	-0.6%
タイ日産自動車	54	2.3%	41	1.6%	-0.7%
ルノー日産インドア	29	1.2%	38	1.5%	+0.3%
マレリ(海外拠点含む)	44	1.9%	37	1.5%	-0.4%
鄭州日産	1	0.0%	2	0.1%	+0.1%
インドネシア日産	1	0.0%	0	0.0%	0.0%

得意先別連結売上構成(日産自動車関連以外)

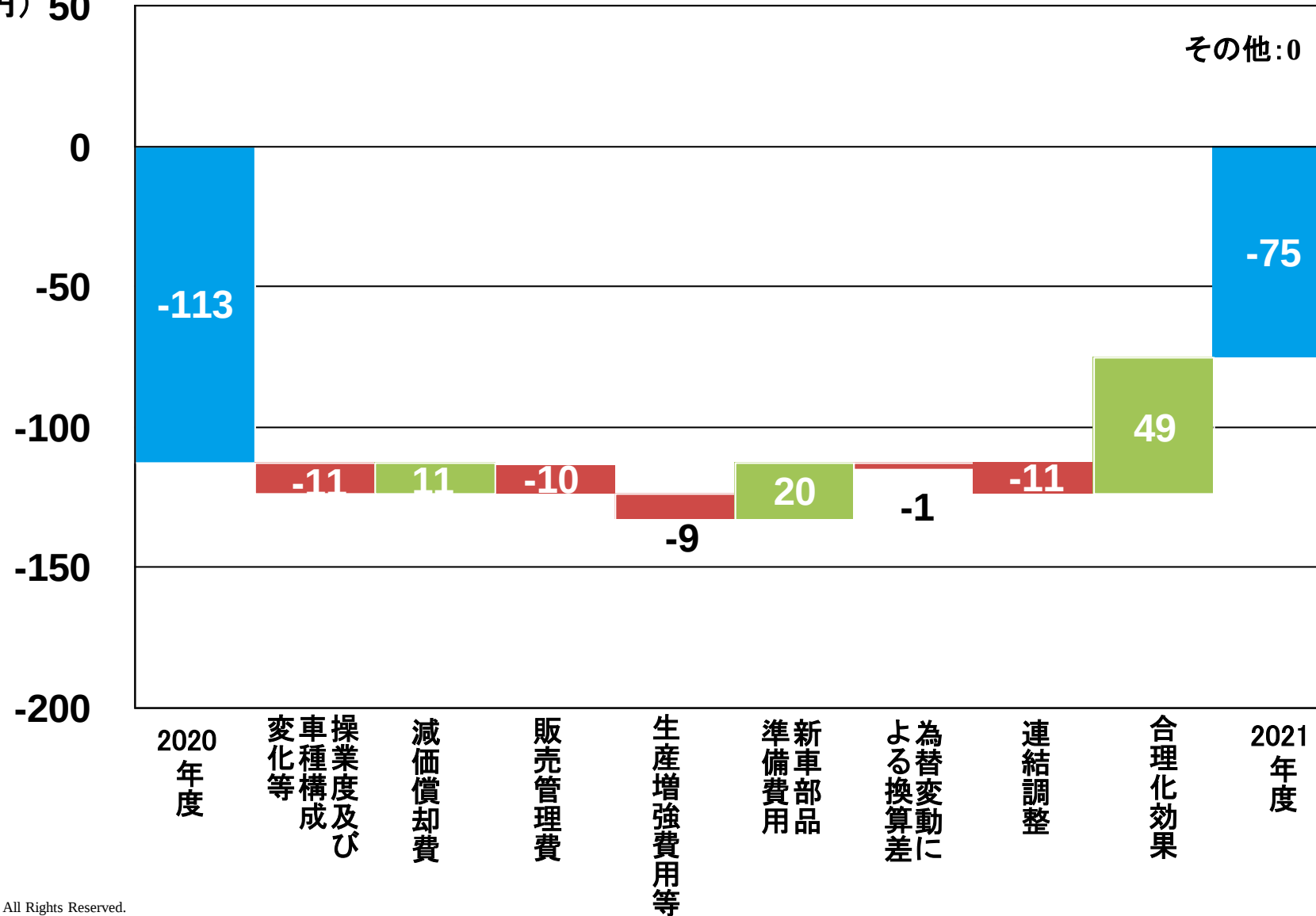
- 三菱自動車向け売上の増加等により、構成比は0.8%増加

(億円)

		2020年度		2021年度		構成比 増減
		売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連以外の得意先 小計		433	18.5%	491	19.3%	+0.8%
内)ホンダ	米国ホンダ	55.8	2.4%	46.8	1.8%	-0.6%
	メキシコホンダ	20.6	0.9%	23.7	0.9%	0.0%
	本田技研工業	23.6	1.0%	22.7	0.9%	-0.1%
	英国ホンダ	23.5	1.0%	20.3	0.8%	-0.2%
	インドネシアホンダ	5.4	0.2%	14.7	0.6%	+0.4%
三菱自動車工業(海外拠点含む)		14.4	0.6%	81.6	3.2%	+2.6%
PSA		36.1	1.5%	43.9	1.7%	+0.2%
アイシン(海外拠点含む)		34.4	1.5%	29.4	1.2%	-0.3%
ルノー		41.9	1.8%	25.5	1.0%	-0.8%
マツダ	メキシコマツダ	6.0	0.3%	6.1	0.2%	-0.1%
	マツダ	18.4	0.8%	17.9	0.7%	-0.1%
ダイナックス(海外拠点含む)		14.5	0.6%	17.7	0.7%	+0.1%
SUBARU		10.4	0.4%	8.9	0.3%	-0.1%
NSKワーナー		5.0	0.2%	4.2	0.2%	0.0%
スズキ(海外拠点含む)		2.8	0.1%	3.6	0.1%	0.0%
いすゞ自動車(海外拠点含む)		1.8	0.1%	2.4	0.1%	0.0%
UDトラックス		2.1	0.1%	2.3	0.1%	0.0%
ダイハツ工業		3.0	0.1%	2.2	0.1%	0.0%
武蔵精密工業		2.8	0.1%	2.1	0.1%	0.0%
日野自動車(海外拠点含む)		1.4	0.1%	1.6	0.1%	0.0%

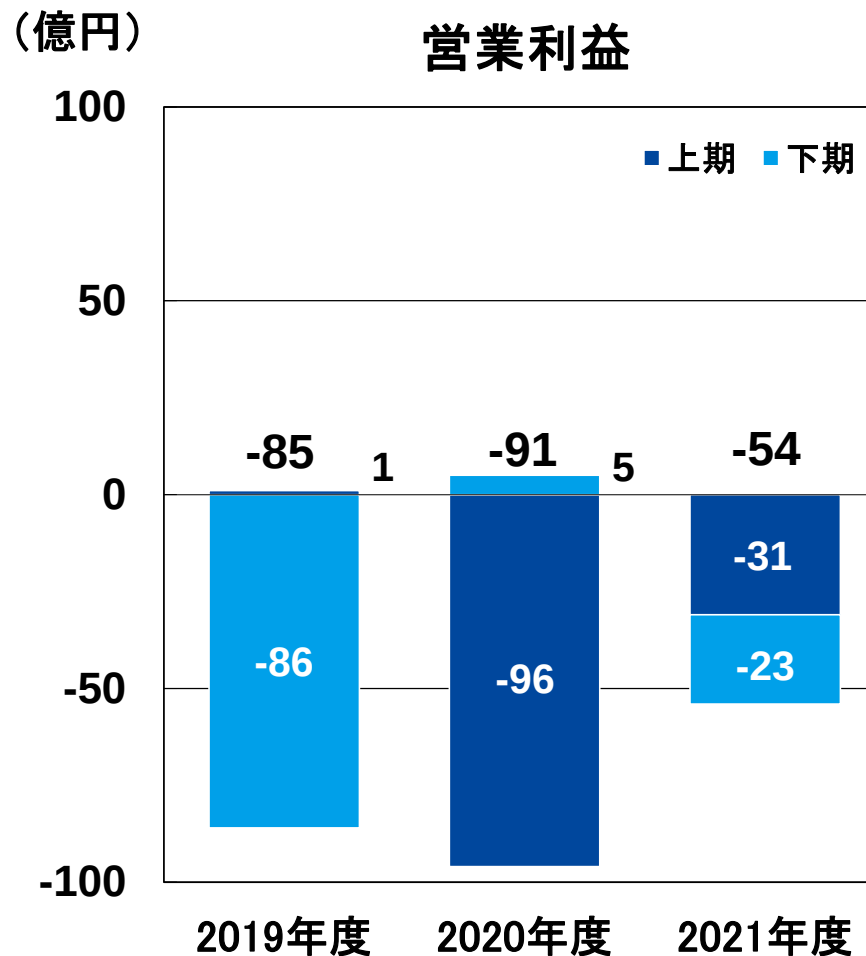
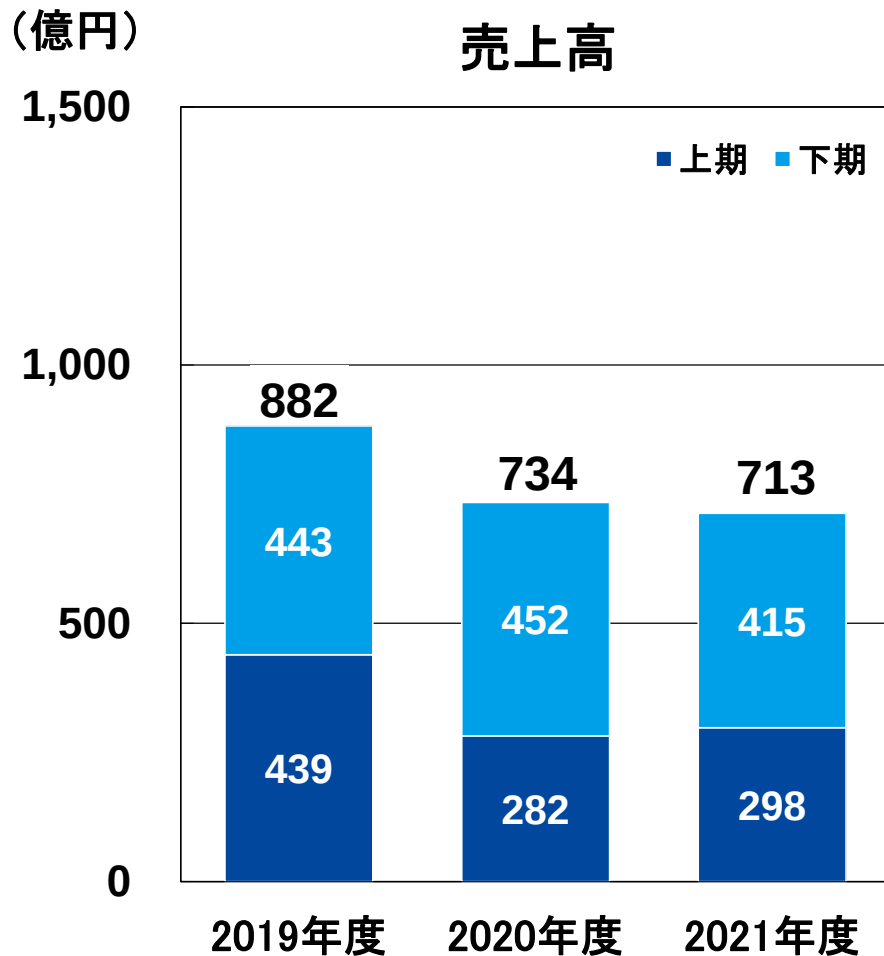
営業利益の増減要因

(億円) 50



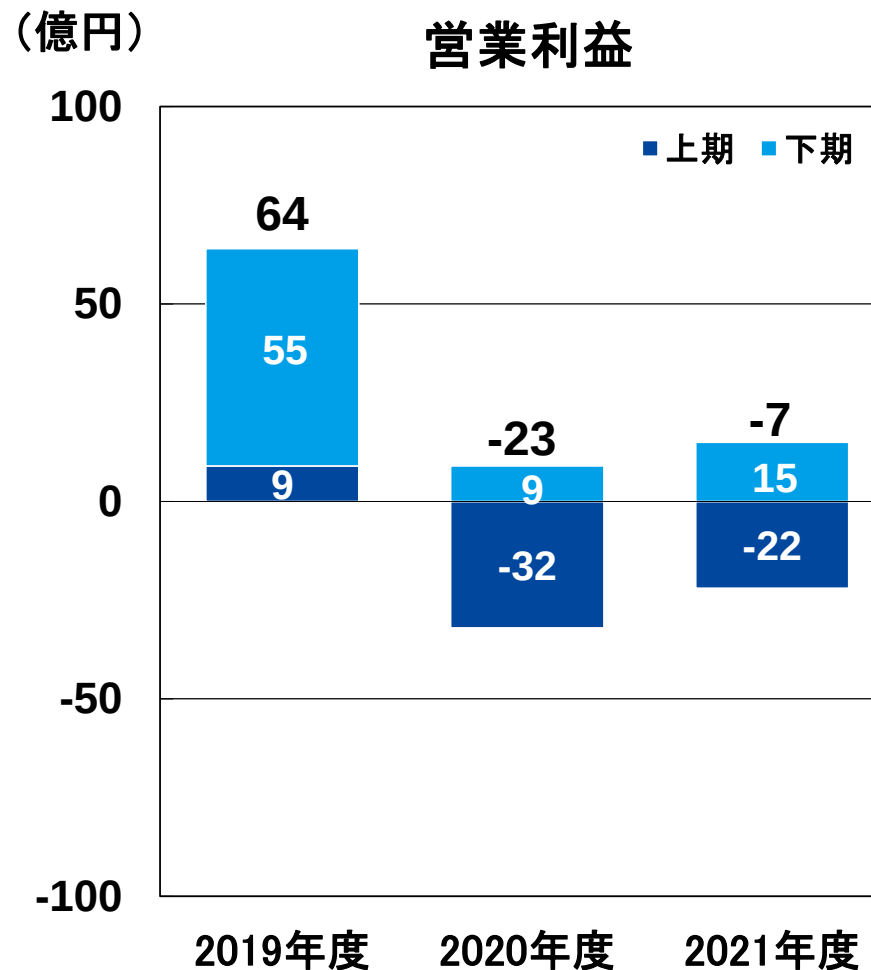
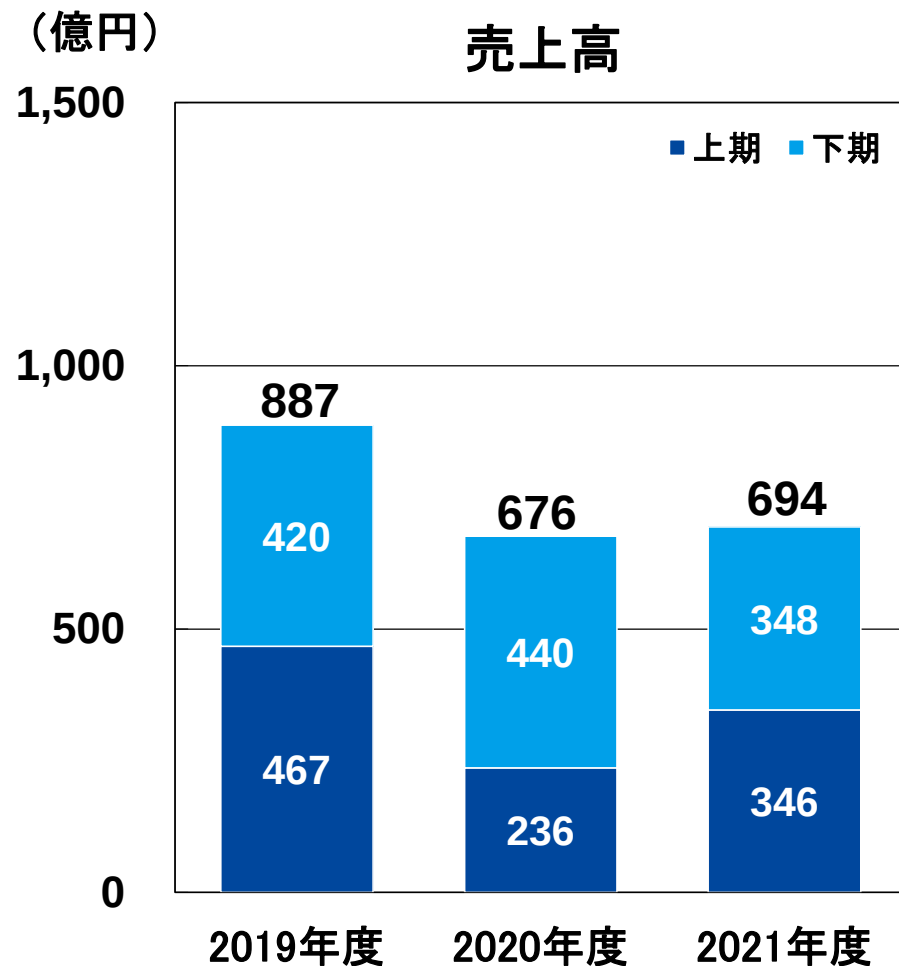
地域別売上高・営業利益（日本）

- 売上高は、新型コロナウイルス感染症の感染長期化および半導体供給不足に伴う得意先の減産影響等により、2.9%減収
- 営業利益は、新車部品立上げ準備費用の削減および合理化効果等により、37億円の改善



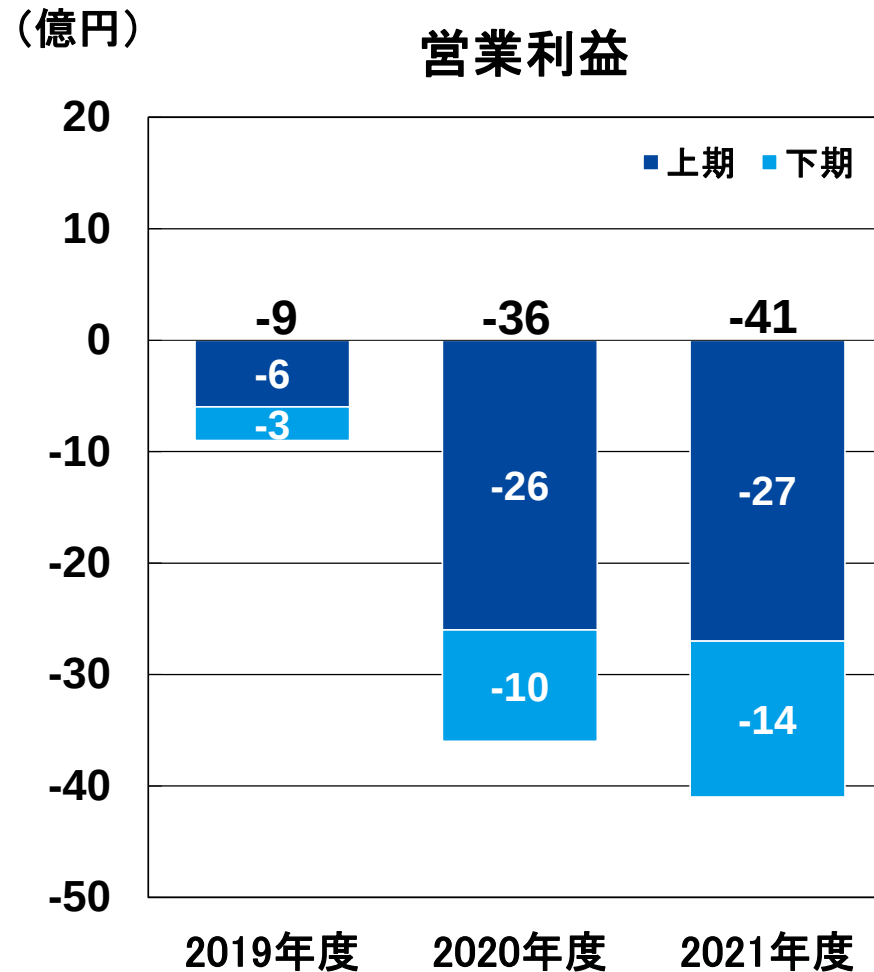
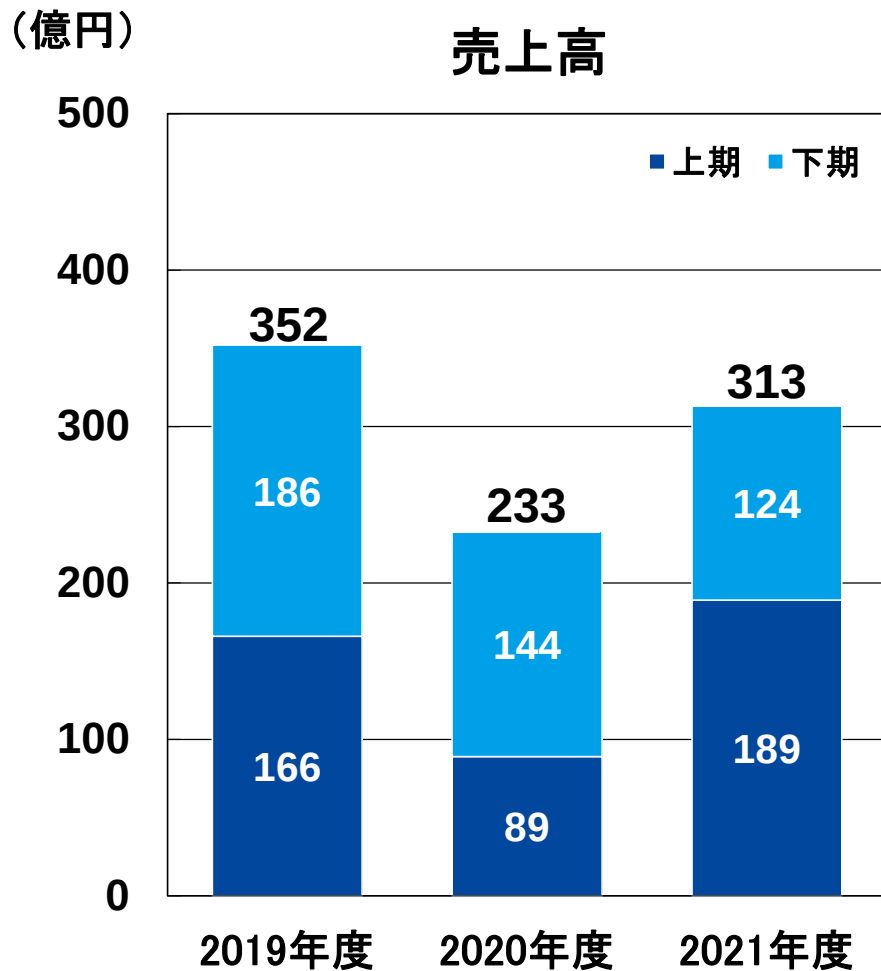
地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、得意先の増産影響および為替換算影響等により、2.7%増収
- 営業利益は、合理化効果等により16億円の改善



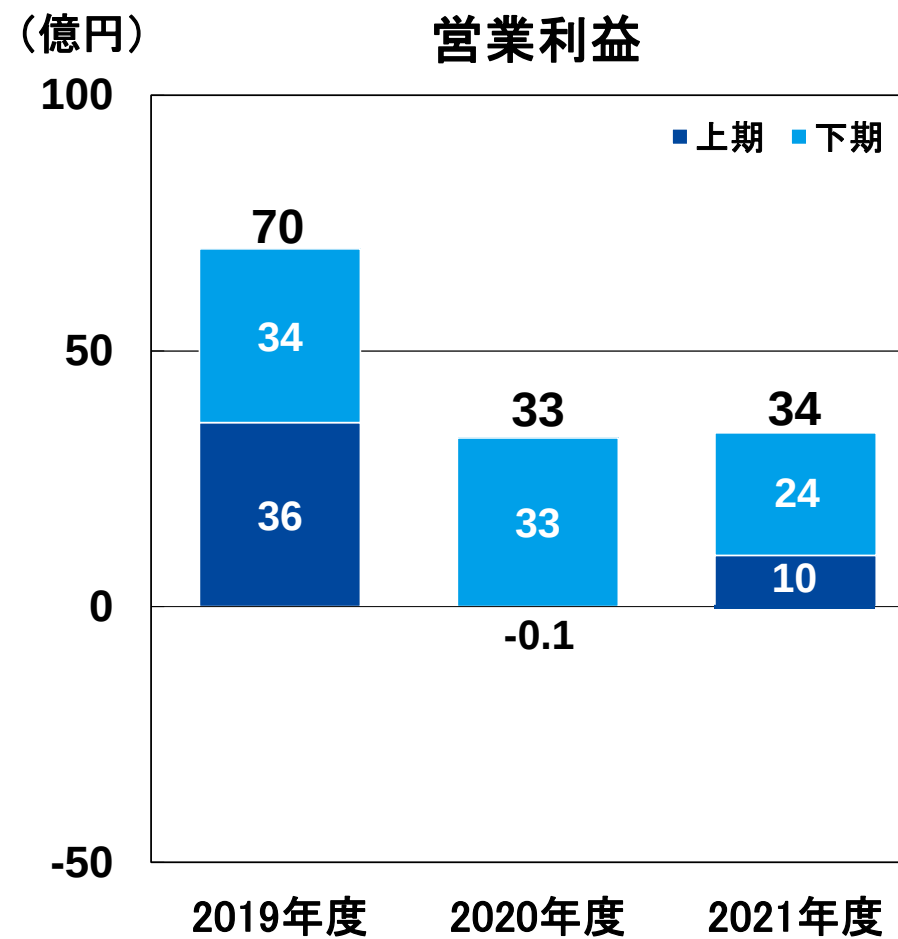
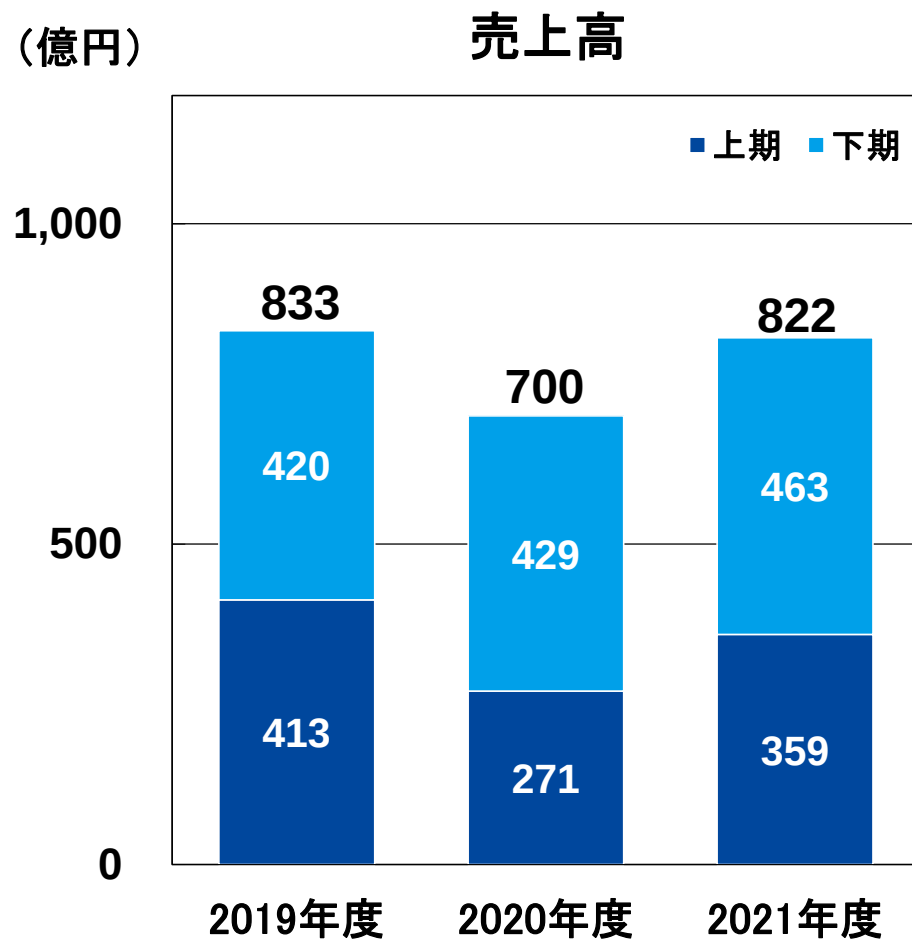
地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、得意先の減産影響はあったものの金型・設備の販売に加え円安による為替換算影響等により、34.3%増収
- 営業利益は、41億円の損失



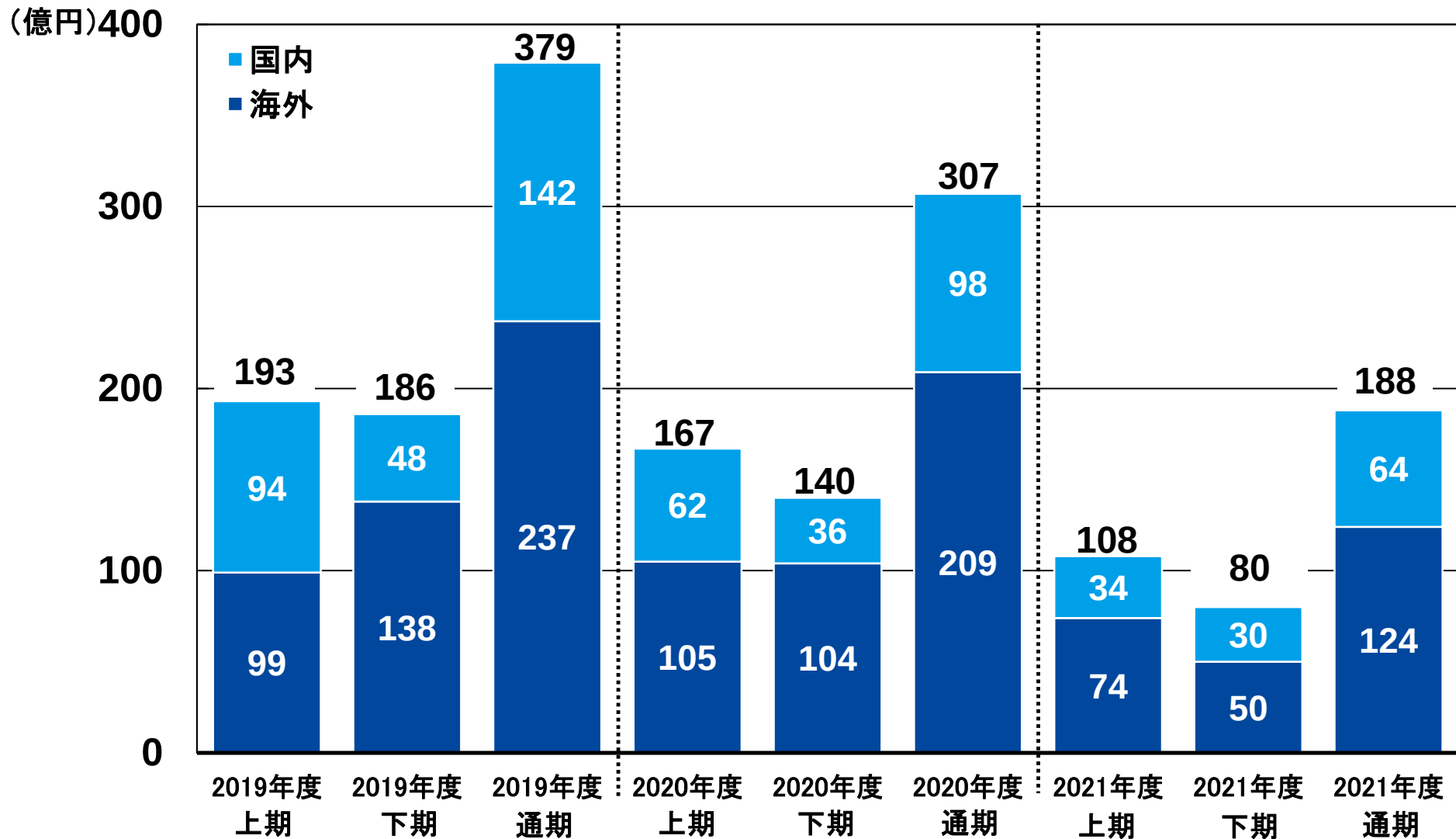
地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、得意先の減産影響はあったものの為替換算影響等により、17.4%増収
- 営業利益は、得意先の減産影響に加え、中国新拠点のコスト負担等があったものの、売上増の影響および合理化効果により、1億円の微増



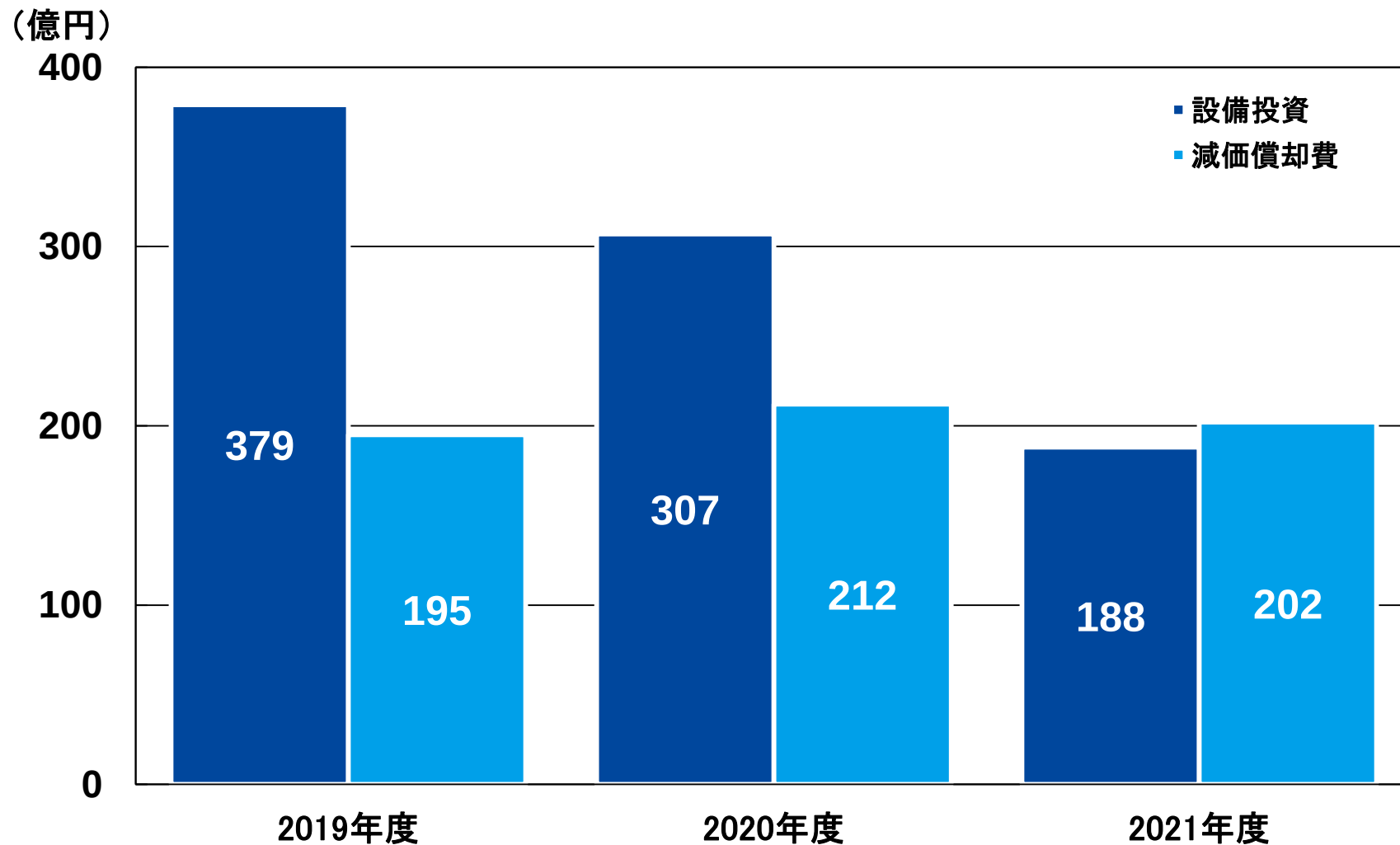
設備投資推移

- 設備投資は、2019年度をピークに大きくピークアウト



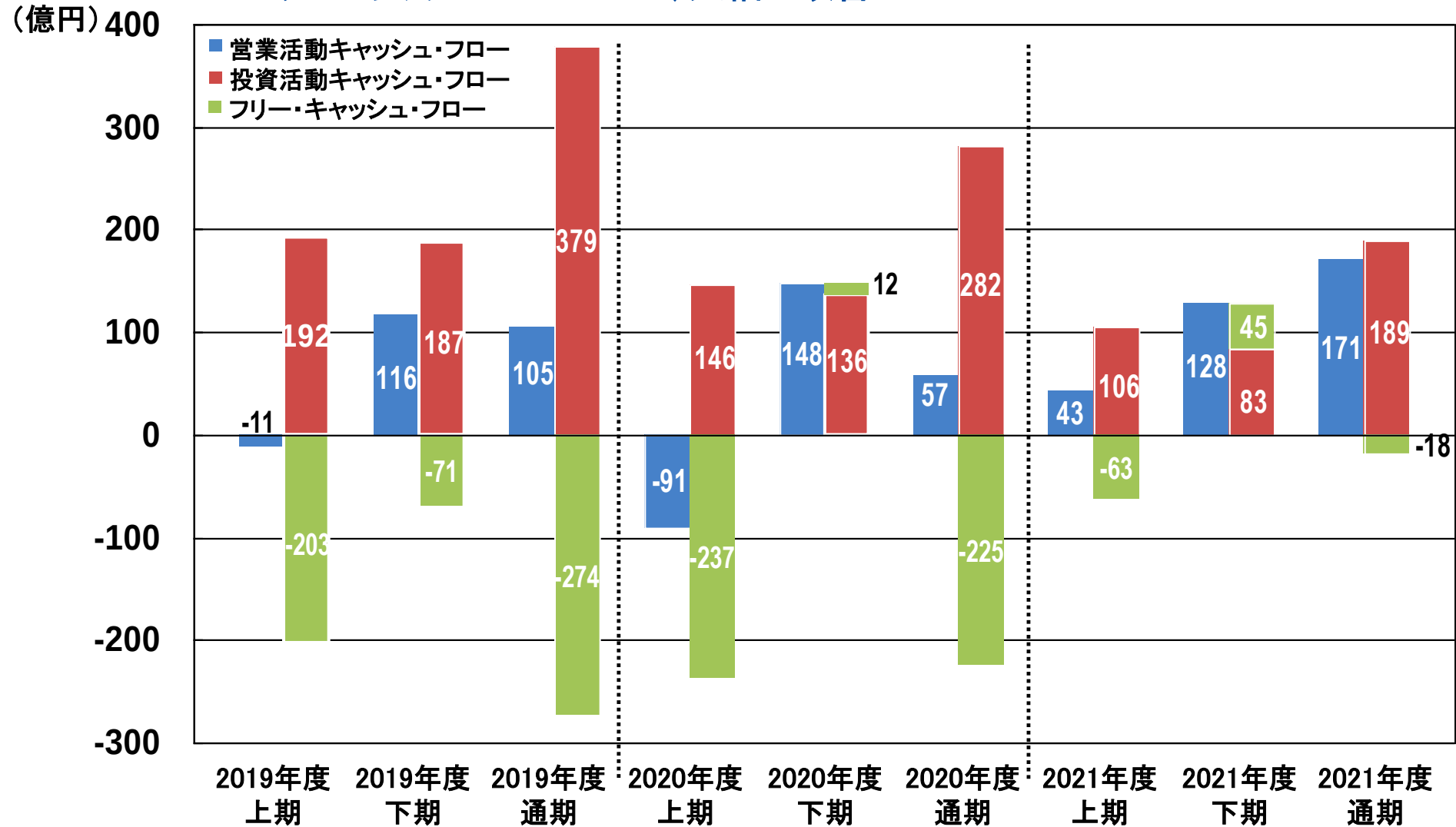
設備投資・減価償却費推移

- 設備投資は、前年度に対して119億円減少（計画対比 42億円減少）
- 減価償却費は、前年度に対して10億円減少（計画対比 5億円減少）



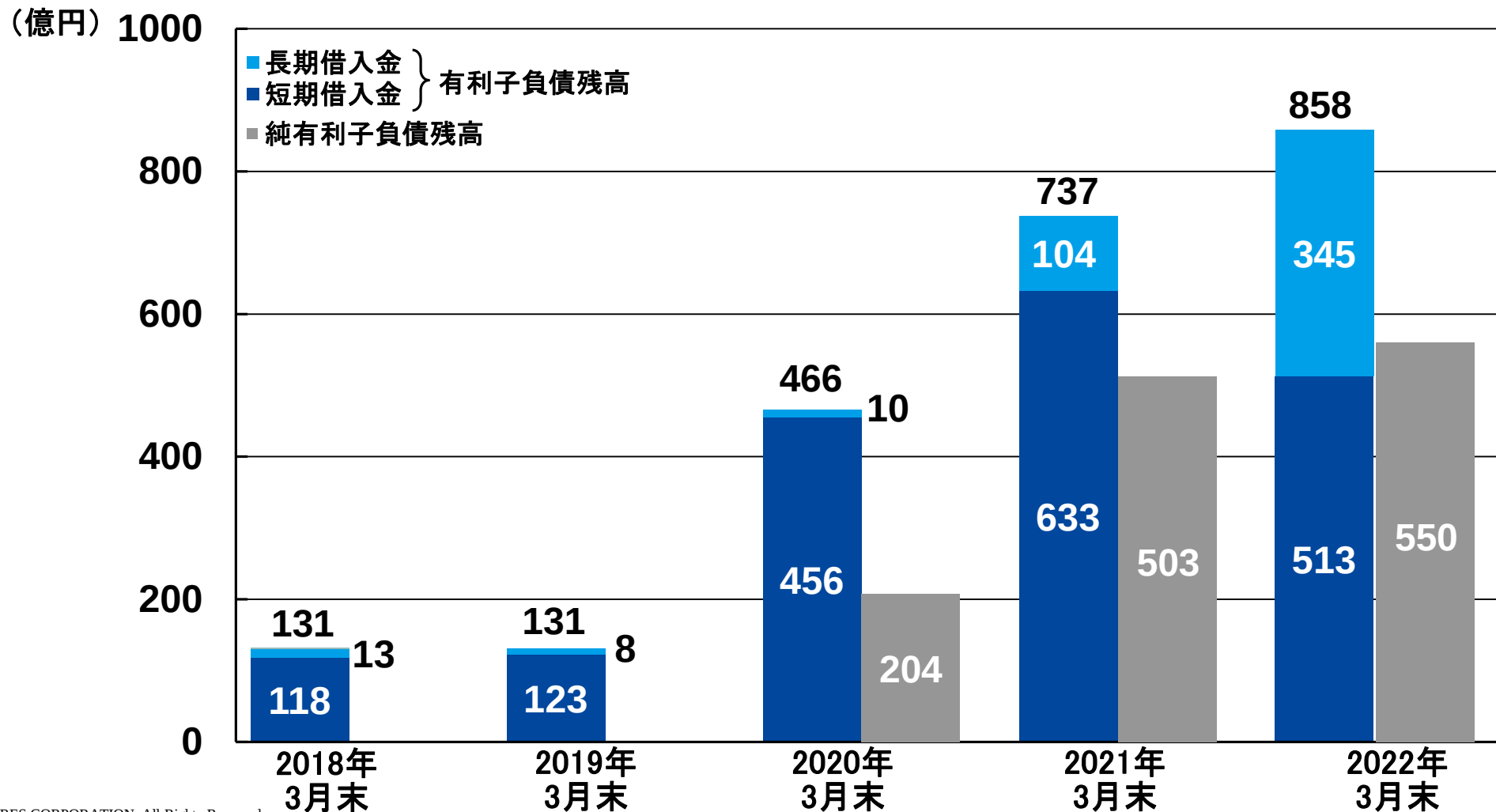
キャッシュ・フロー

● フリー・キャッシュ・フローは、大幅に改善



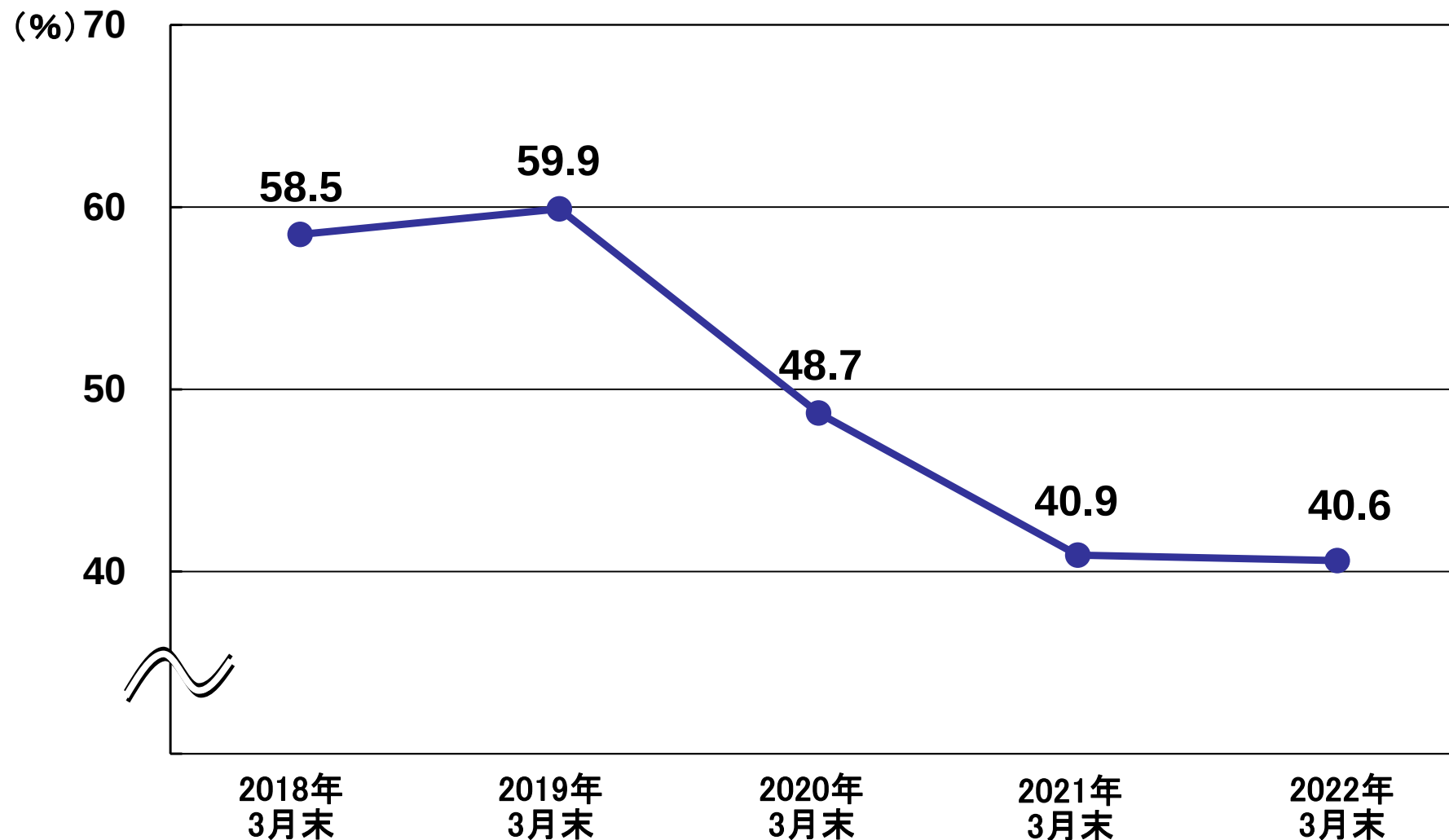
有利子負債・純有利子負債残高の推移

- 有利子負債は、前年度末に対して121億円増加
- 現預金を含めた純有利子負債は、550億円



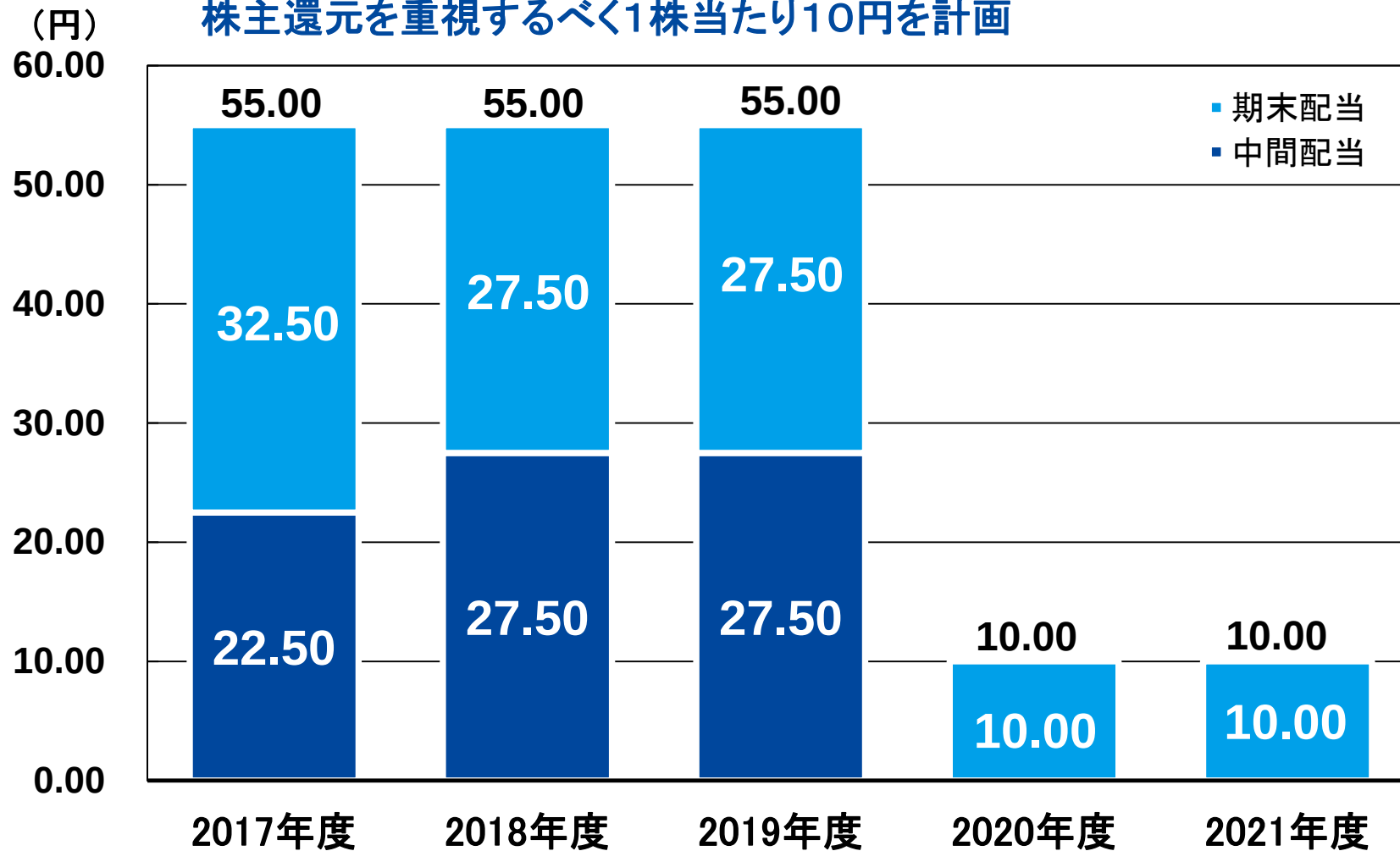
自己資本比率の推移

- 親会社株主に帰属する当期純損失の計上等により、前年度末と同水準の40.6%



配当金推移

- 中間配当は、2021年度第2四半期(累計)の業績が好転に至らず、無配
- 期末配当は、基本方針である安定的かつ適正な水準の配当を維持し、株主還元を重視するべく1株当たり10円を計画



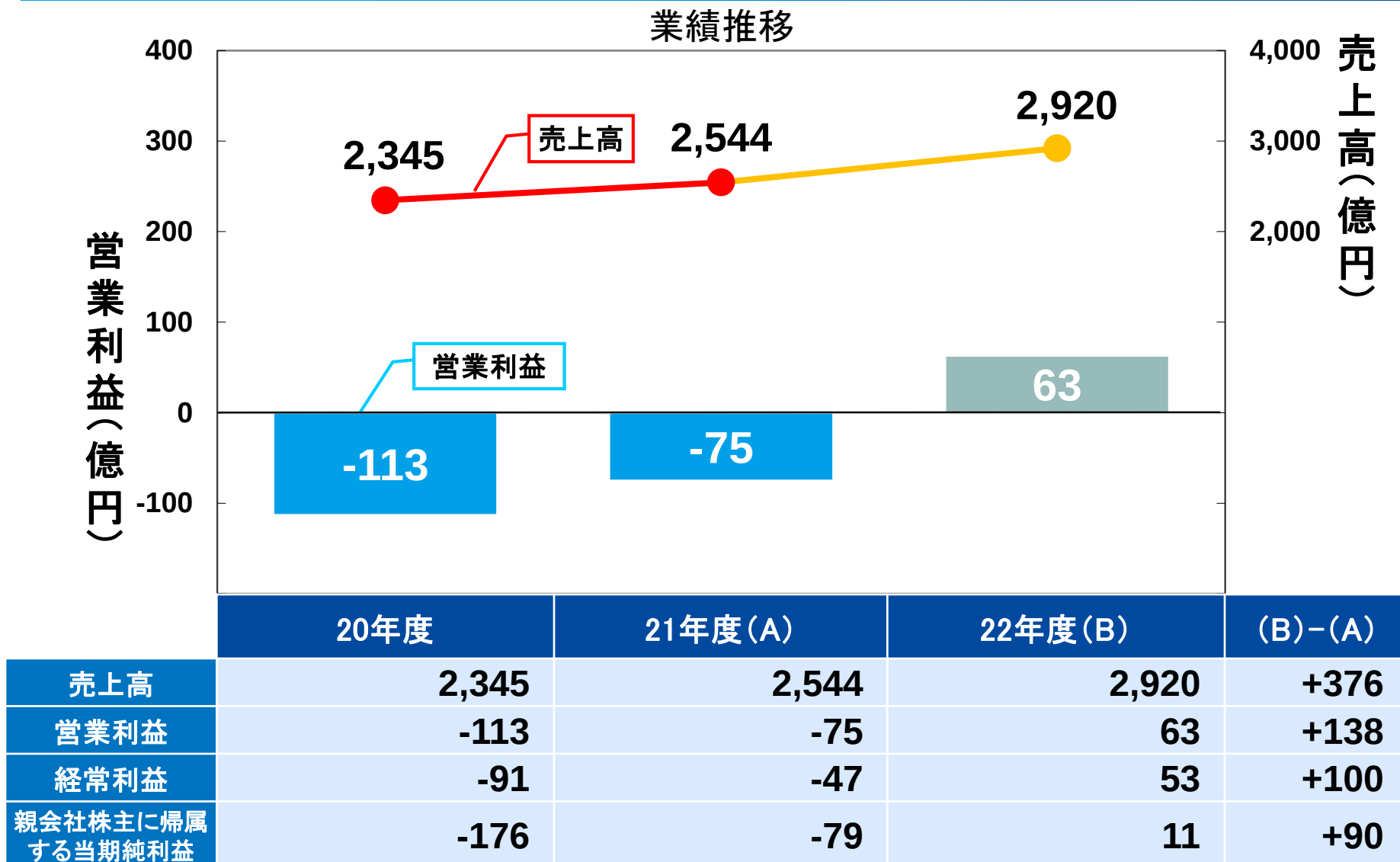


2022年度見通しについて

1. 売上高は、半導体供給不足や資源の高騰、ウクライナ情勢等の不安定要素により、引き続き不透明な状況となるが、得意先の受注が緩やかに回復することを見込み増収

2. 営業利益は、売上増の影響により黒字に転換

2022年度連結業績見通しサマリー



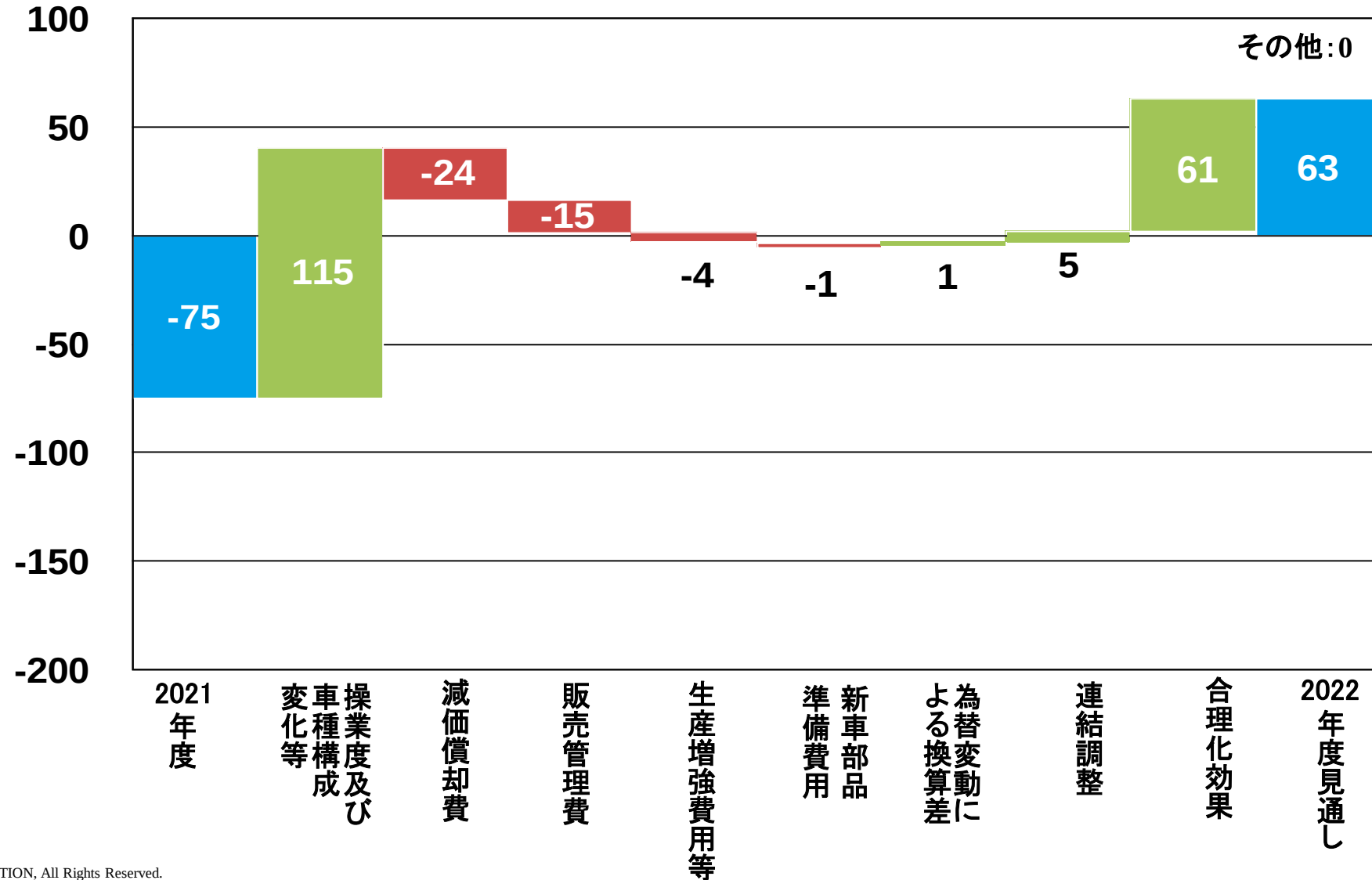
製品群別連結売上構成

(億円)

	2021年度		2022年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	2,177	85.6%	2,512	86.0%	+335	+0.4%
トランスミッション製品	317	12.4%	358	12.3%	+41	-0.1%
樹脂製品	31	1.2%	31	1.1%	0	-0.1%
その他	19	0.8%	19	0.6%	0	-0.2%
合計	2,544	100%	2,920	100%	+376	—

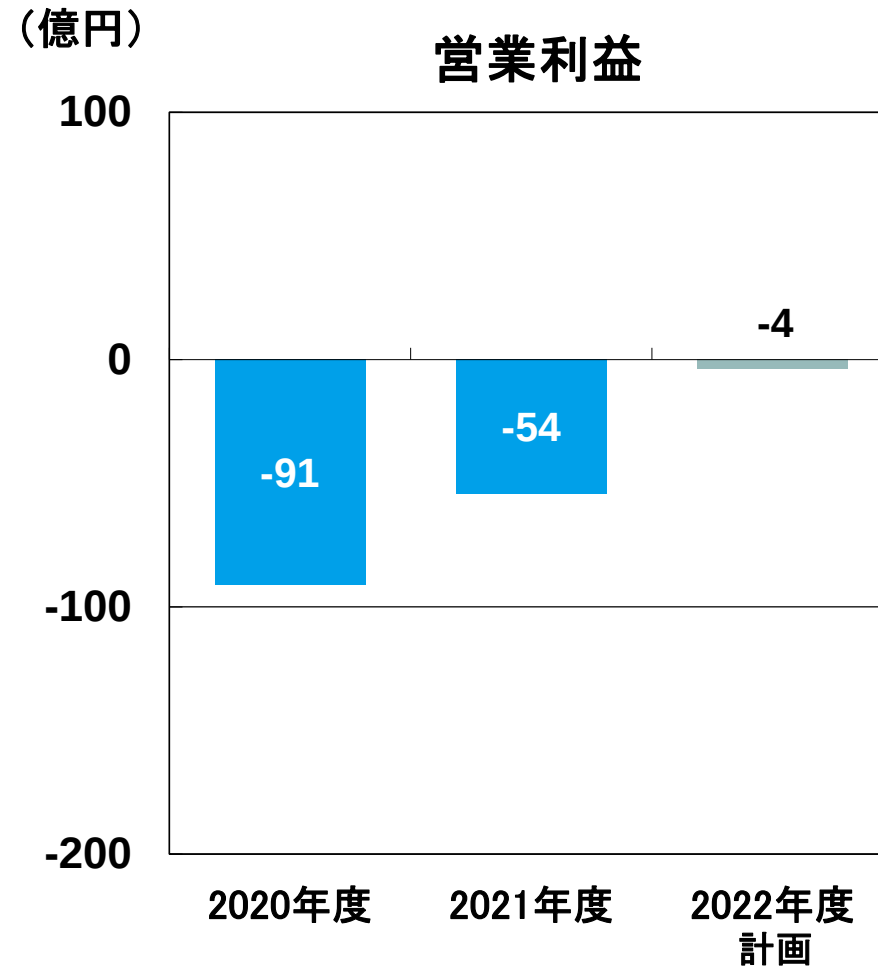
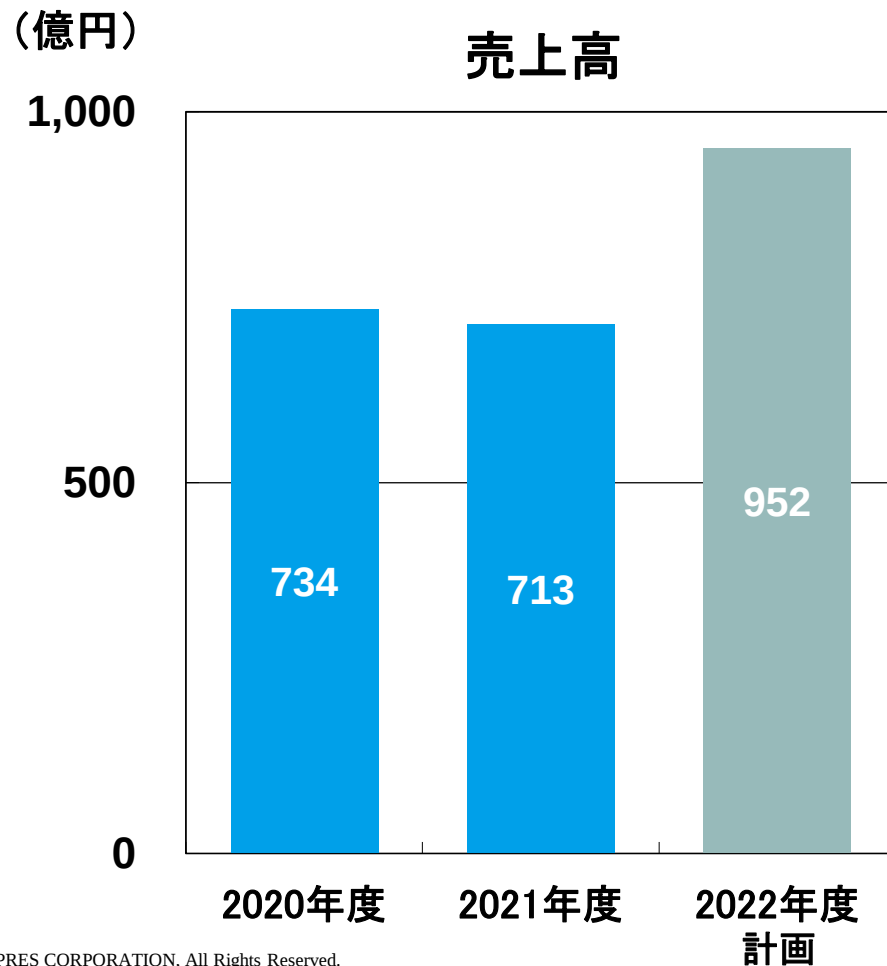
営業利益の増減見通し

(億円)



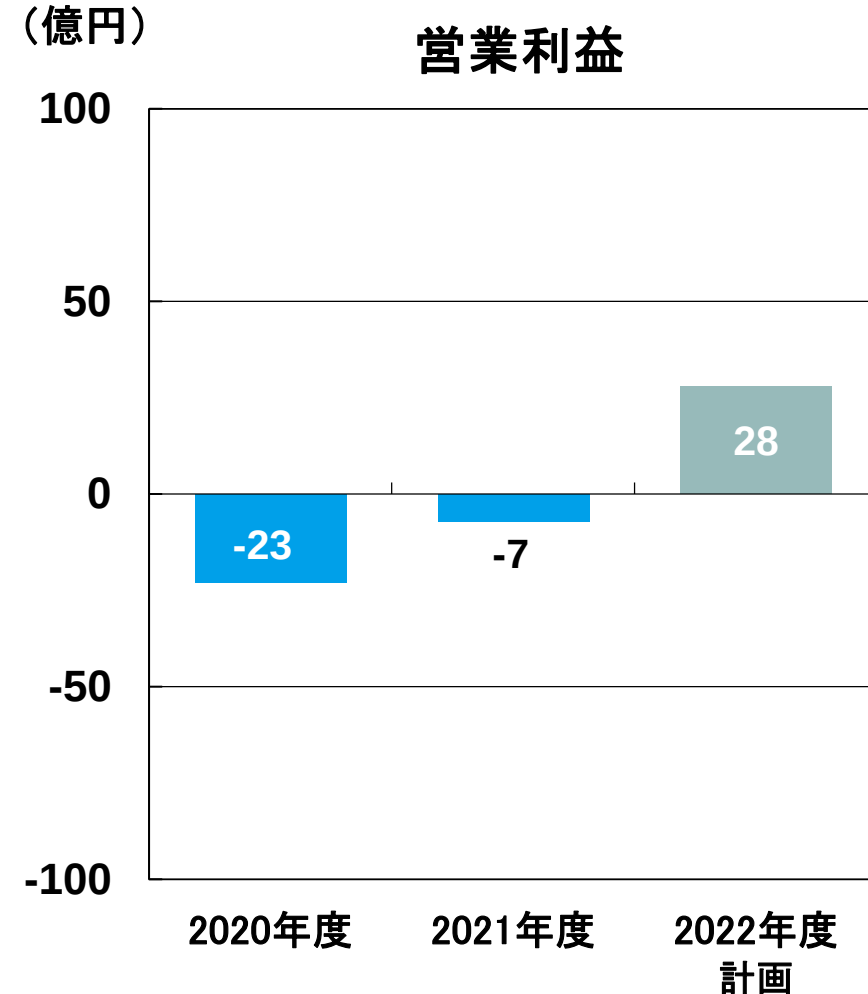
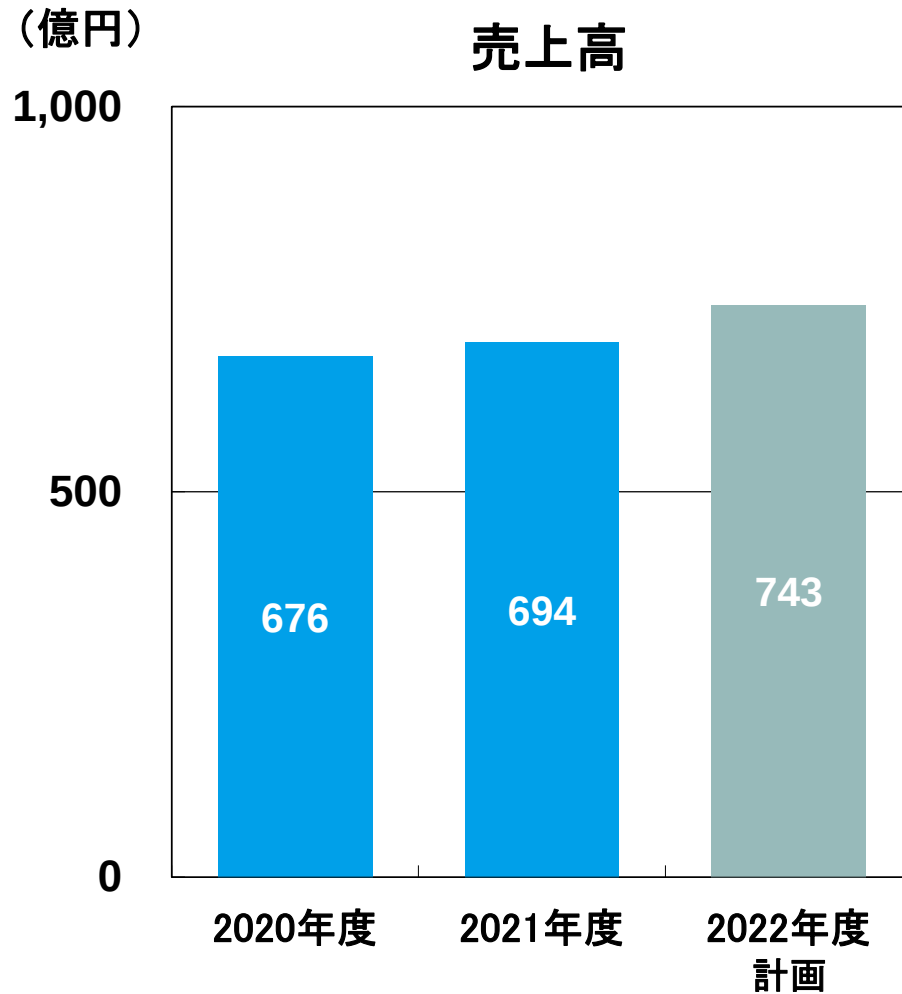
地域別売上高・営業利益(日本)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、増益を計画



地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、増益を計画

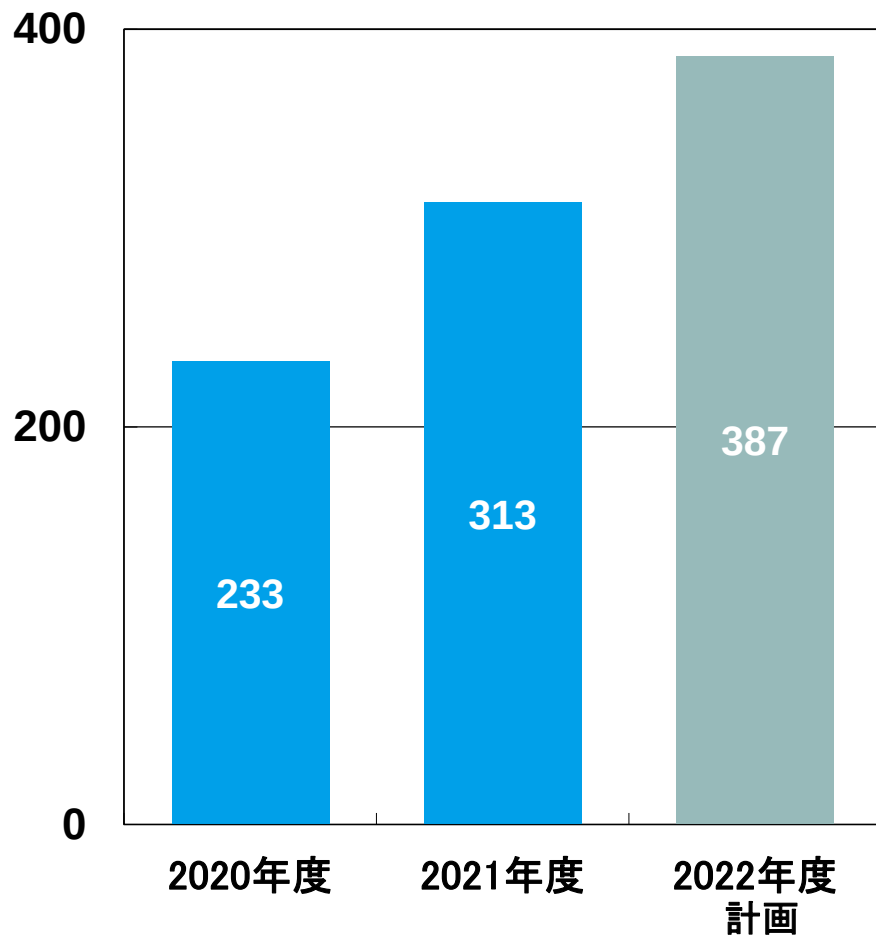


地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、増益を計画

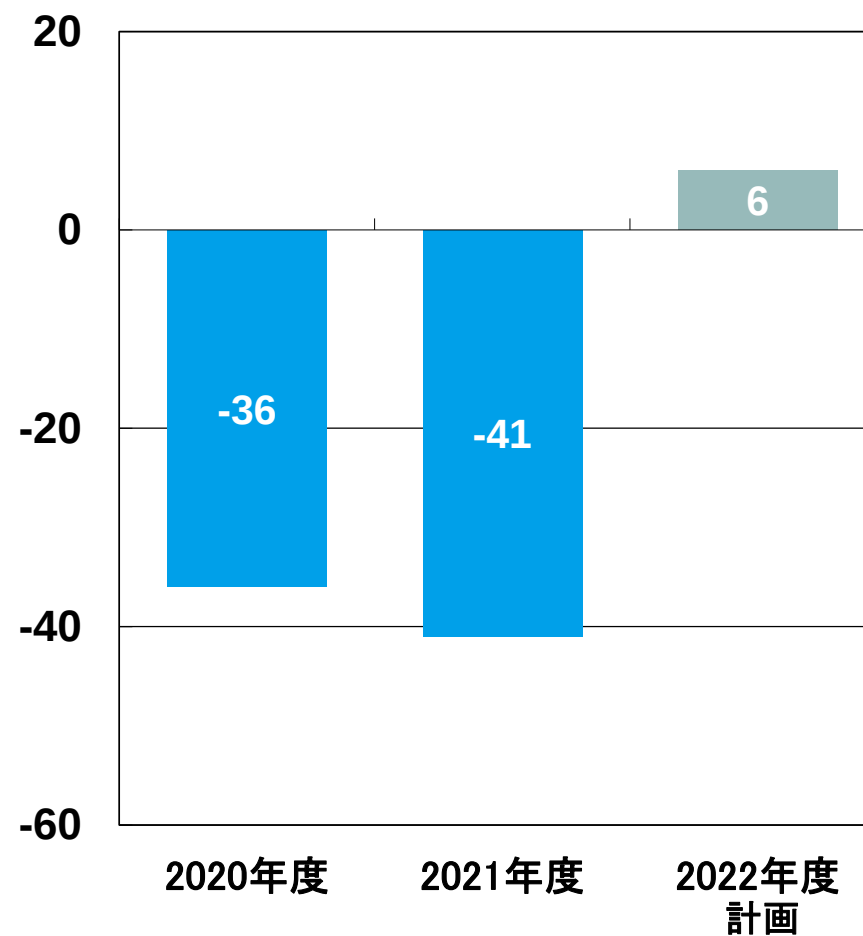
(億円)

売上高



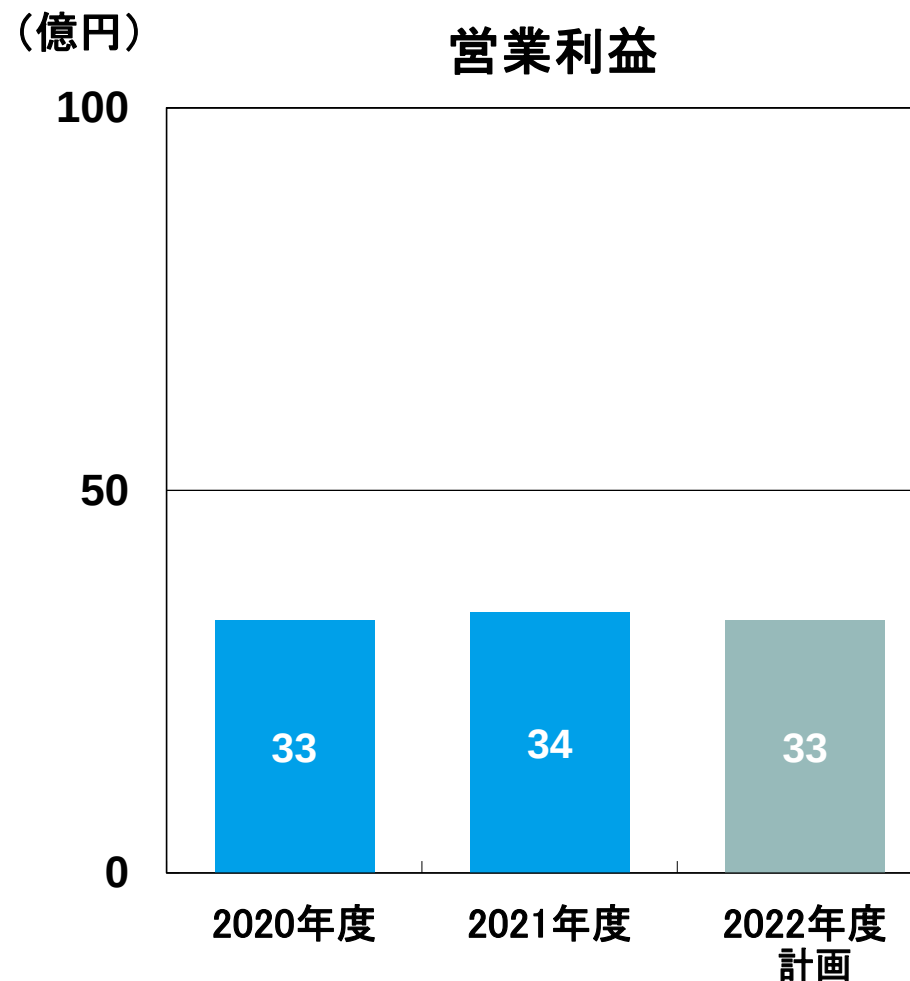
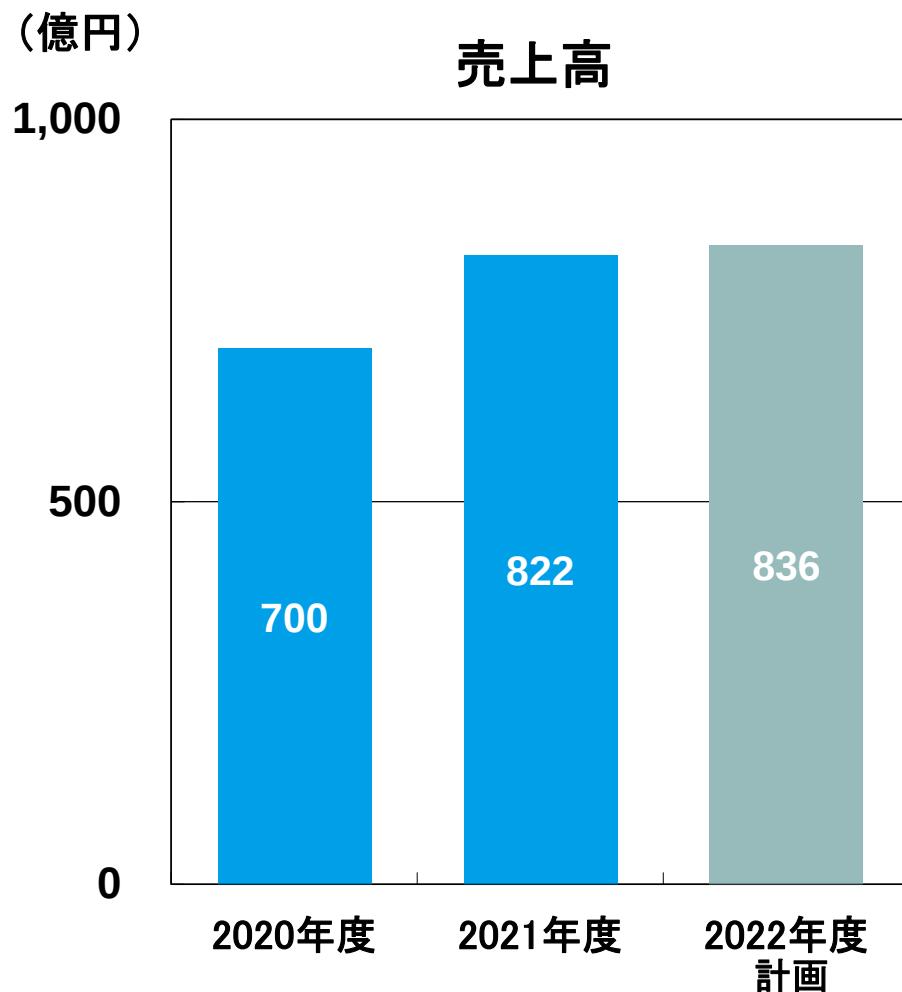
(億円)

営業利益



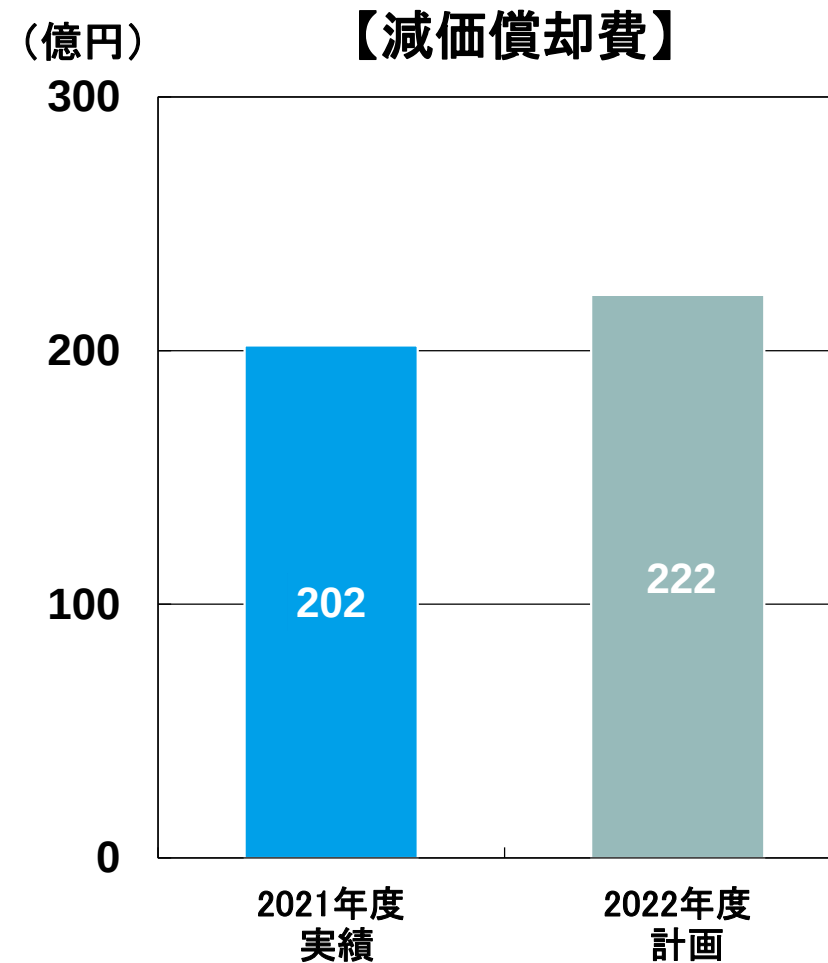
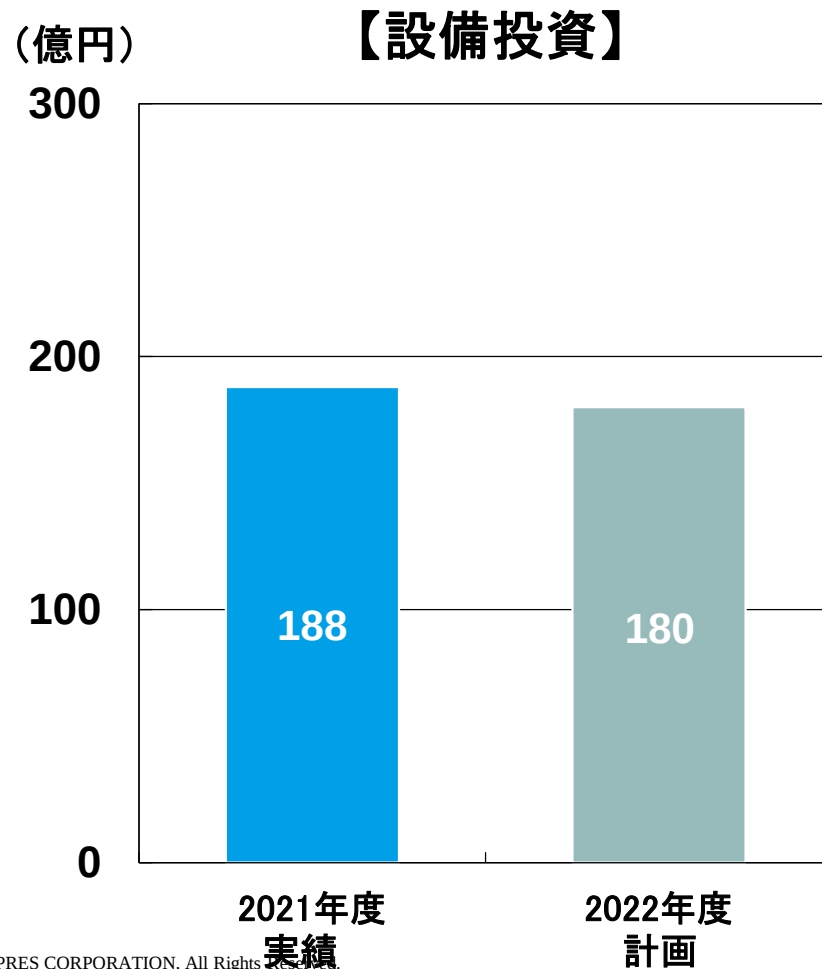
地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、中国を中心とした円安による為替換算影響等により、増収を計画
- 営業利益は、中国新拠点のコスト負担等もあり、微減を計画



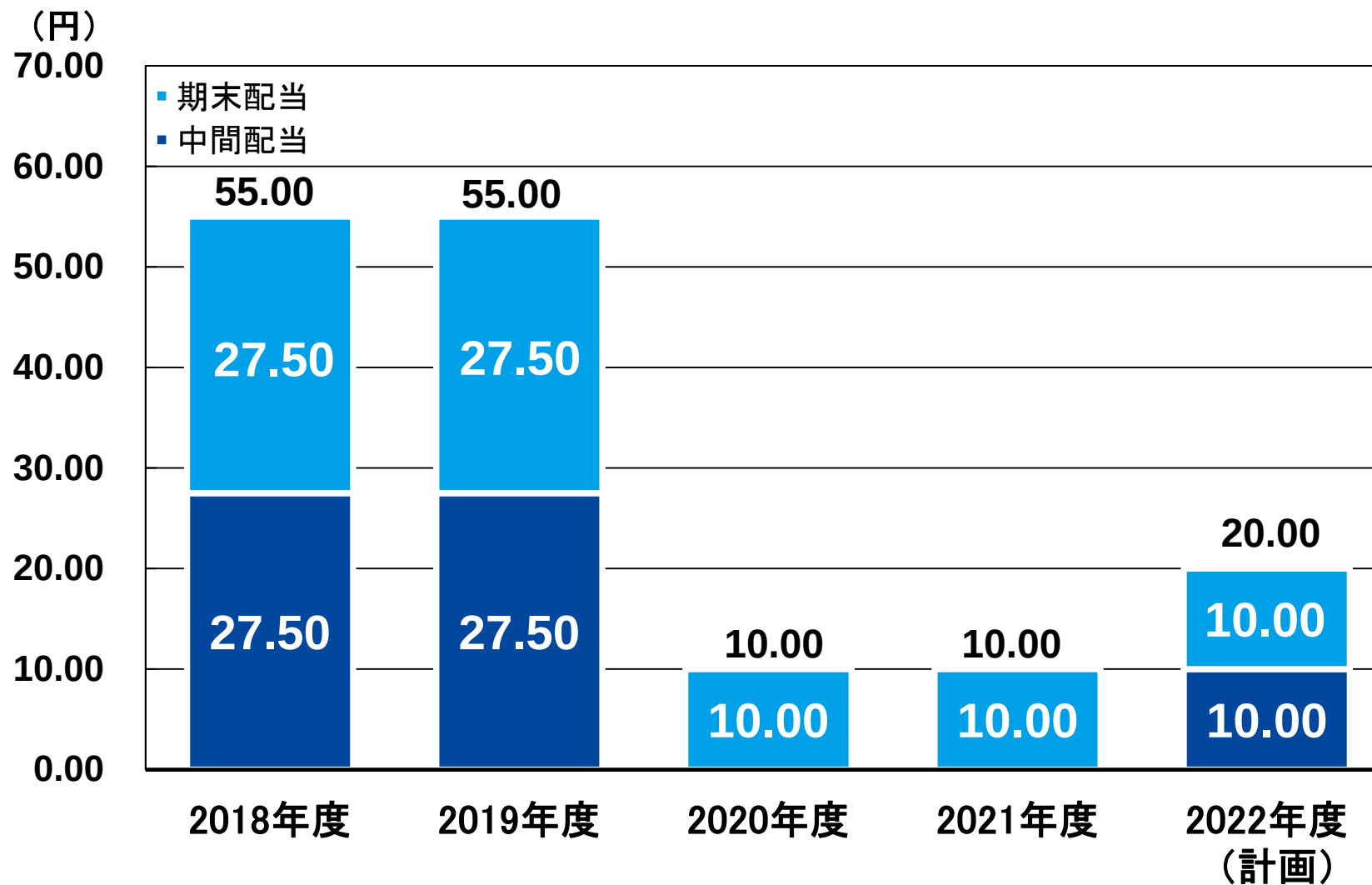
設備投資・減価償却費計画

- 設備投資は、前年度比8億円の減少
- 減価償却費は、2020年度以降に投資したモデルチェンジ車種が量産開始となり、20億円の増加



配当金推移

- 2022年度は1株20円を計画

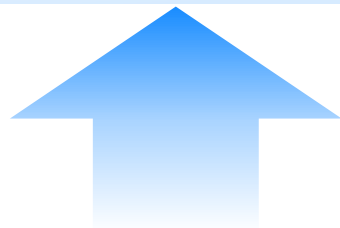




中期経営方針

サステナビリティ経営の実現

「経済的価値」と「社会的価値」の同時創出



【経営理念】

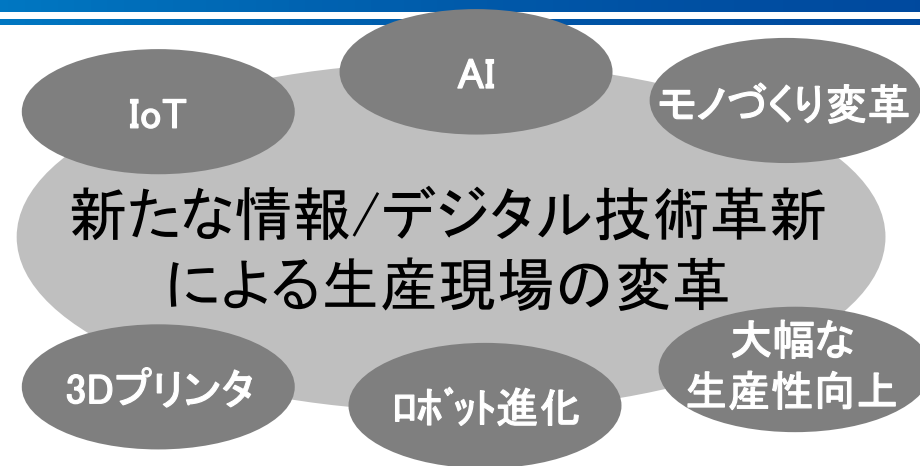
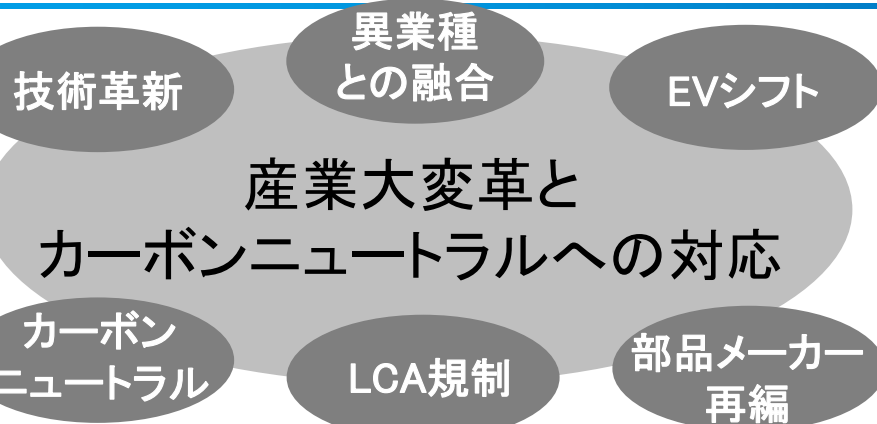
「プレスを究めて、プレスを越える」

【中期経営方針】

グローバルNo.1企業をめざし、UPS活動の推進により
収益力と競争力を強化する

3つの重要な経営課題

自動車産業
を取り巻く
環境変化



強み

お客様の「何とかしたい」を叶える『**解決型ビジネス風土**』と
「任せて良かった」に応える『**付加価値提案力**』

3つの重要な
経営課題

電動化への 対応加速

- ・戦略的技術開発の加速
- ・グローバル拡販の推進
- ・品質の向上

業界トップレベルの 収益力実現

- ・連結・単体の収益力再強化
- ・スマート工場の実現
- ・製品開発力・生産技術開発力の強化

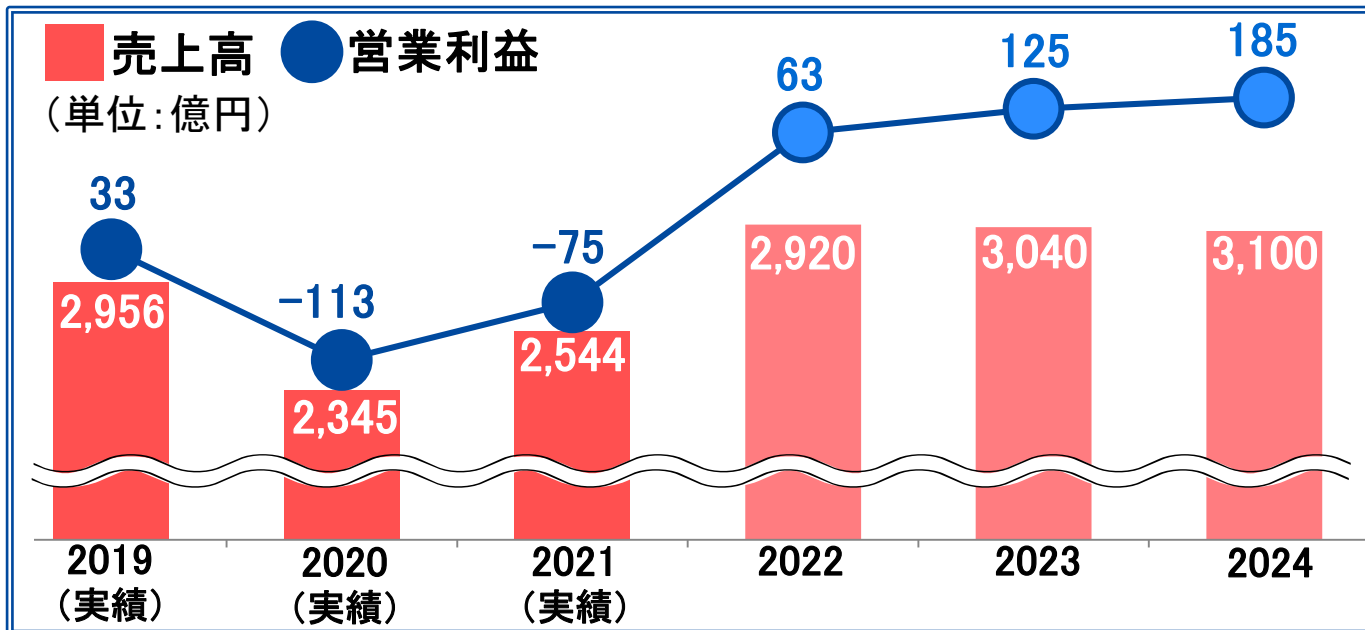
サステナビリティ 経営の推進

- ・ESGの取り組み拡充
- ・カーボンニュートラルへの対応
- ・ガバナンス体制の強化

2022-2024年度 中期経営方針 定量目標

経営指標

	2024年度
売上高	3,100億円
営業利益	185億円
売上高営業利益率	6.0%
ROE	約9%



設備投資計画

- ・2022年度: 180億円
- ・2023年度以降: 120億円～170億円

株主還元方針

- ・安定的・継続的な利益還元を推進
- ・自社株買いは状況に応じて機動的に実施



1. 電動化への対応加速



(1) グローバル拡販の推進

2021年度新車部品の立上げ実績と今後の見通し

	2021	2022	2023	2024
日本	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★	★ ★	★ ★ ★ ★
米州	★ ★ ★ ★	★ ★ ★	★ ★	★ ★ ★ ★ ★ ★
欧州	★ ★	★ ★ ★	★ ★	★ ★ ★ ★
アジア (中国・タイ・ インド・ インドネシア)	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	★	★ ★ ★ ★
計	21	19	7	18

日産・三菱 共通プラットフォーム“軽自動車EV”受注状況

日産自動車・三菱自動車がNMKVで企画・開発した共通プラットフォームの
軽自動車EV向け部品を受注し、2022年3月より生産を開始

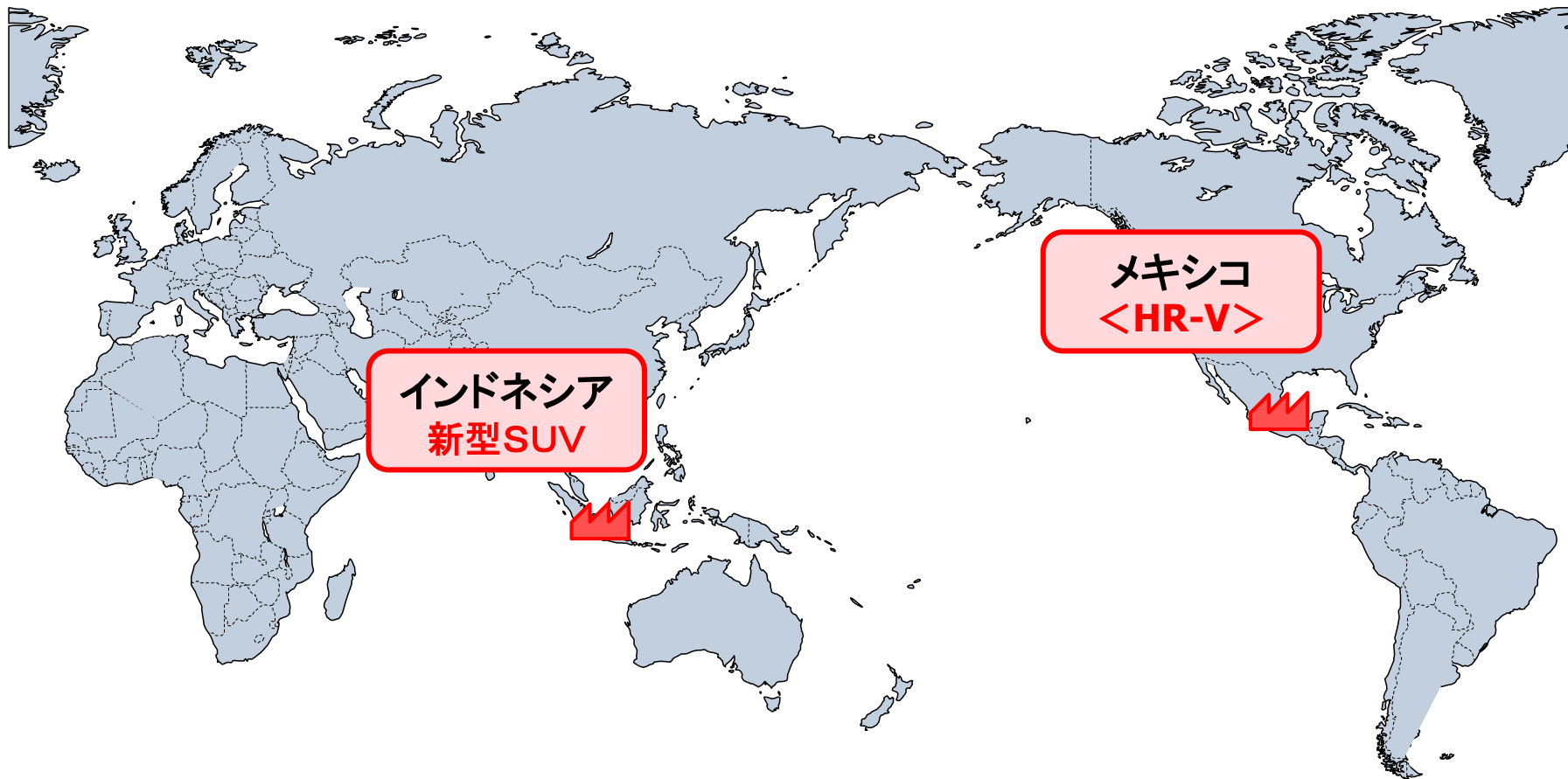


日産自動車「サクラ」

日産自動車・三菱自動車は、5月20日に新型軽自動車EVを発表

ホンダ車 受注状況

ホンダがメキシコで生産する「HR-V」およびインドネシアで生産する新型SUV向け部品を受注



新規先への拡販戦略

これまで取引のないカーメーカーや既取引拠点以外での受注に繋げるため、
同業サプライヤーからの受注による拡販を推進

インド

●スズキ 小型SUV車
(Toyotetsu)

インドネシア

●現代自動車「クレタ」
(INGRESS(片山工業))

アメリカ

●マツダ「CX-50」
(キーレックス)

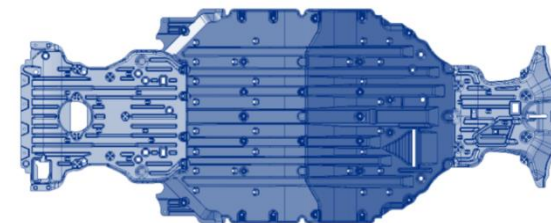


マツダ株式会社の利用合意を受けているので、他への転載、転用を一切禁ずる。

マツダ「CX-50」

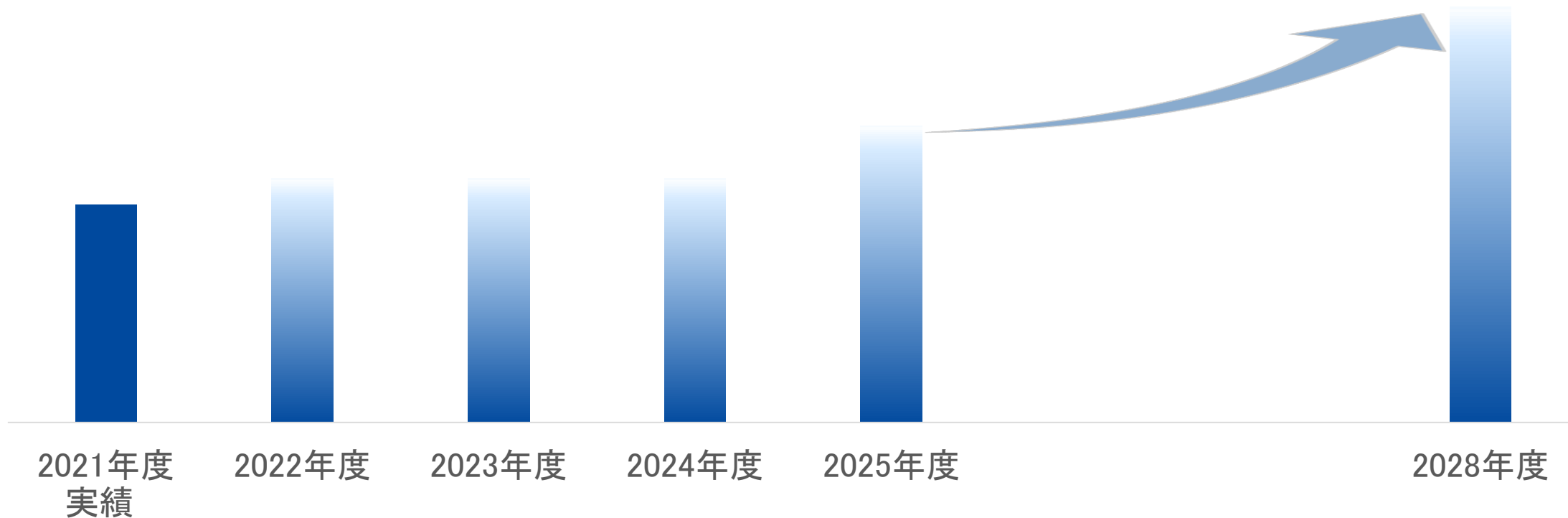
※()内は、同業サプライヤー名

電動化により、アンダーカバーが大型化、フルフラット化
 ⇒大型の樹脂製品を薄く、軽く、低コストで生産できる
 当社技術の優位性を活かし、アンダーカバーの受注が拡大



ホンダ「Honda e」向け
アンダーカバー類

【樹脂事業の売上計画】

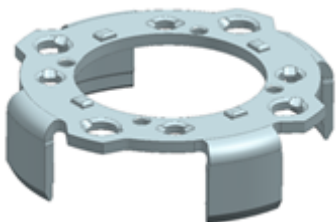


トランスミッション部品事業の拡販状況

- ・アイシンの北米拠点向け部品を初受注、2ユニット向けにそれぞれ2021年9月、2022年4月より生産開始
- ・マツダよりFRユニット向け部品を初受注、2022年1月より生産開始

【アイシン】

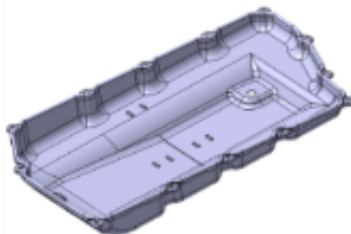
	FR10速AT	FFAT
生産拠点	日本／米国	米国
搭載車種	セコイヤ、タンドラ、 タコマ	SUV
受注部品	日本：キャリア、ローター スピードセンサー、オイル レシーバー 米国：オイルパン	キャリア2部品、ハブ



キャリア



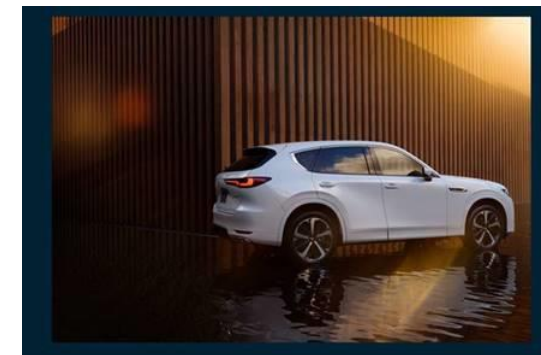
ロータースピードセンサー



オイルパン

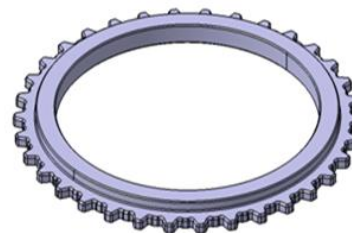
【マツダ】

	FR8速HEV用AT
生産拠点	日本
搭載車種	CX60
受注部品	ハブ、プレート2部品

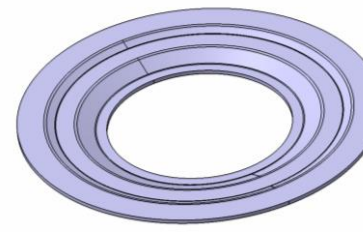


マツダ株式会社の利用合意を受けているので、他への転載、転用を一切禁ずる。

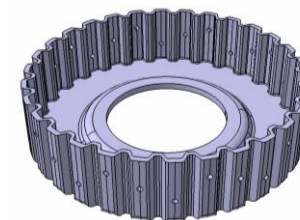
マツダ「CX-60」



リテーニングプレート



ハブアウターモスト



ハブブレーキ



(2) 戦略的技術開発の加速

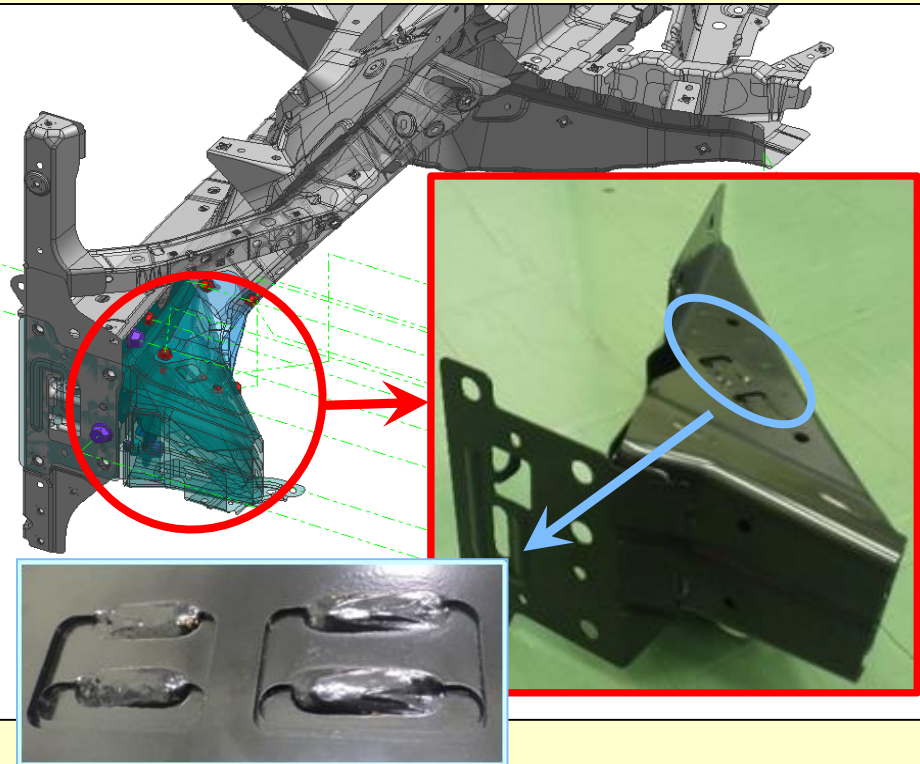
1.2GPa TRIP鋼 アーク溶接技術開発及び量産化

冷間 1.2GPa TRIP鋼へのアーク溶接技術を開発

中国 INFINITY QX60(2021年型)
下屋骨格部品を受注

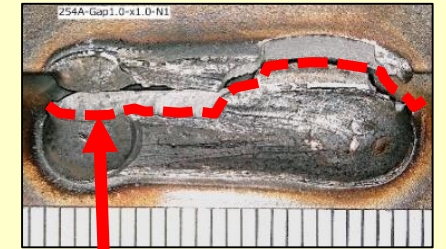
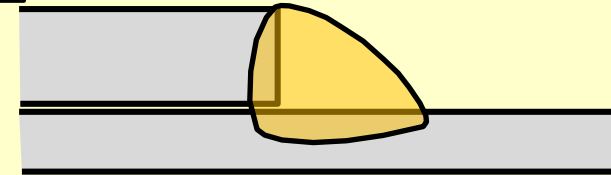
GUSS ASSY-FR SIDE MBR

- ・材料: 1.2GPa TRIP鋼 板厚: 1.6mm
- ・小ラップ衝突性能確保のための骨格部品



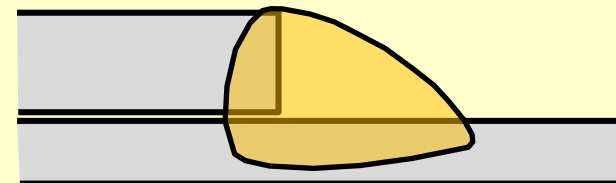
イメージ図

<Before>



従来の溶接では溶接部が脆く、溶接ビード部に亀裂が発生

<After>

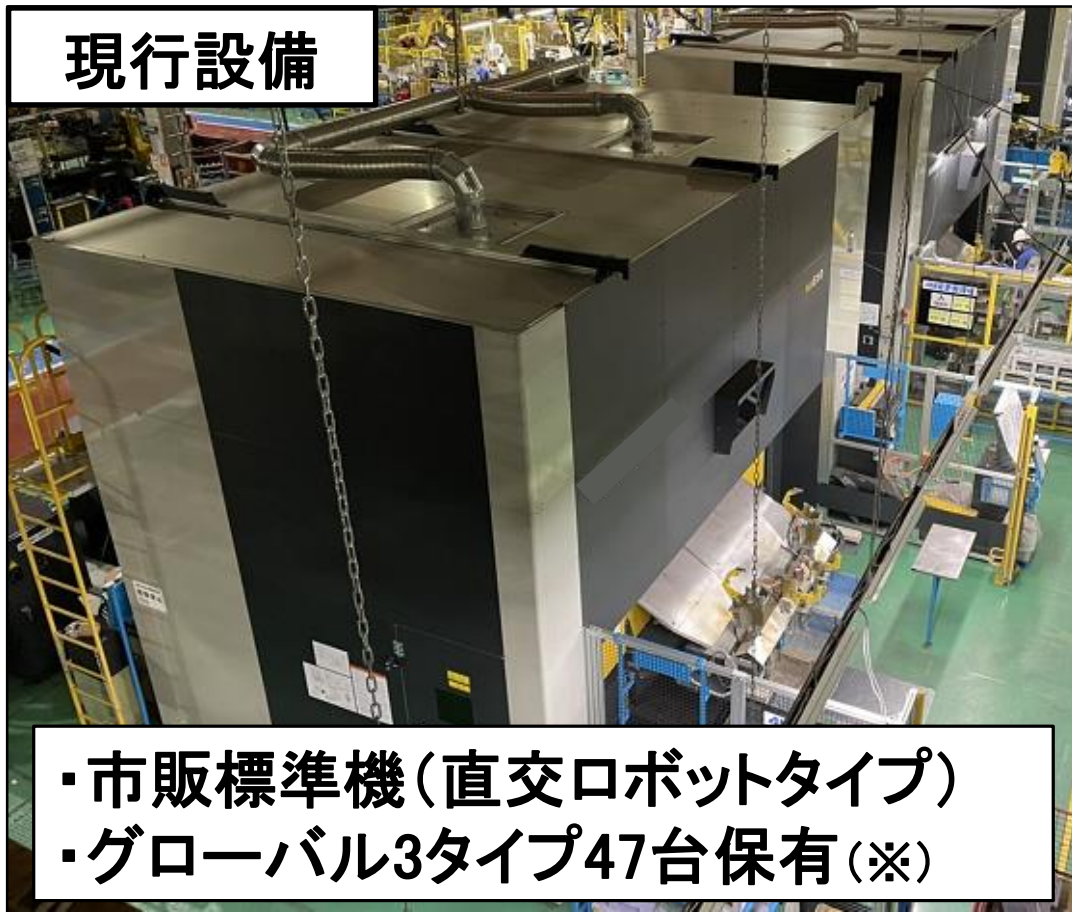


最適溶接条件・溶接ビード形状を見出し
強度と品質を確保

ホットスタンプ用レーザー加工機ライン開発

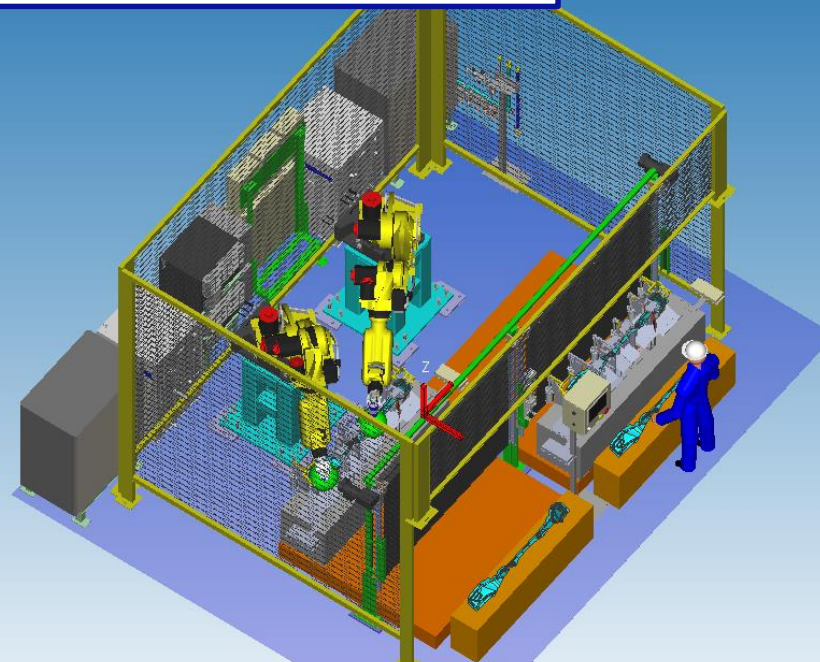
＜狙い＞ ・投資額の抑制 ・生産性の向上 ・設置面積の縮小

現行設備



- ・市販標準機（直交ロボットタイプ）
- ・グローバル3タイプ47台保有（※）

開発ライン構想図



- ・多関節ロボット2台タイプ

【対現行設備】 投資額：15%削減 生産性：1.3倍 設置面積：40%縮小

※6カ国10拠点（関連会社中国1社、日本1社を含む）



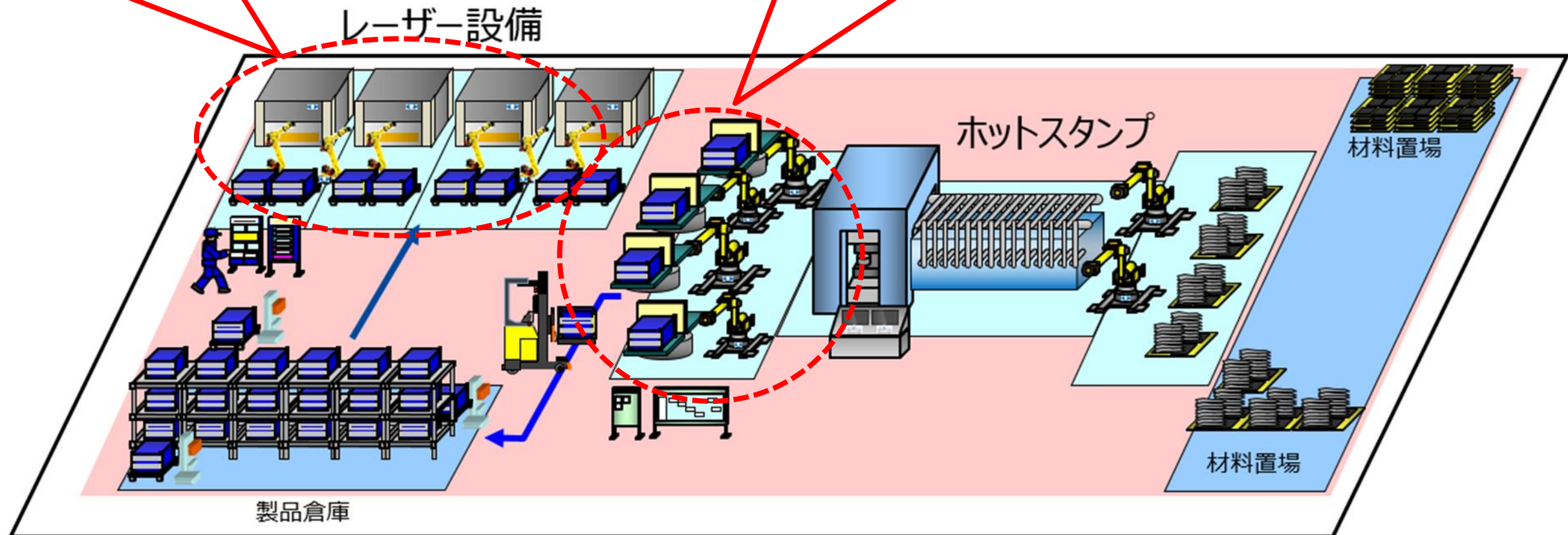
2. 業界トップレベルの収益力実現

自動化による省人化の取り組み

<ホットスタンプ スマート工場鳥瞰図>

レーザー設備の自動化

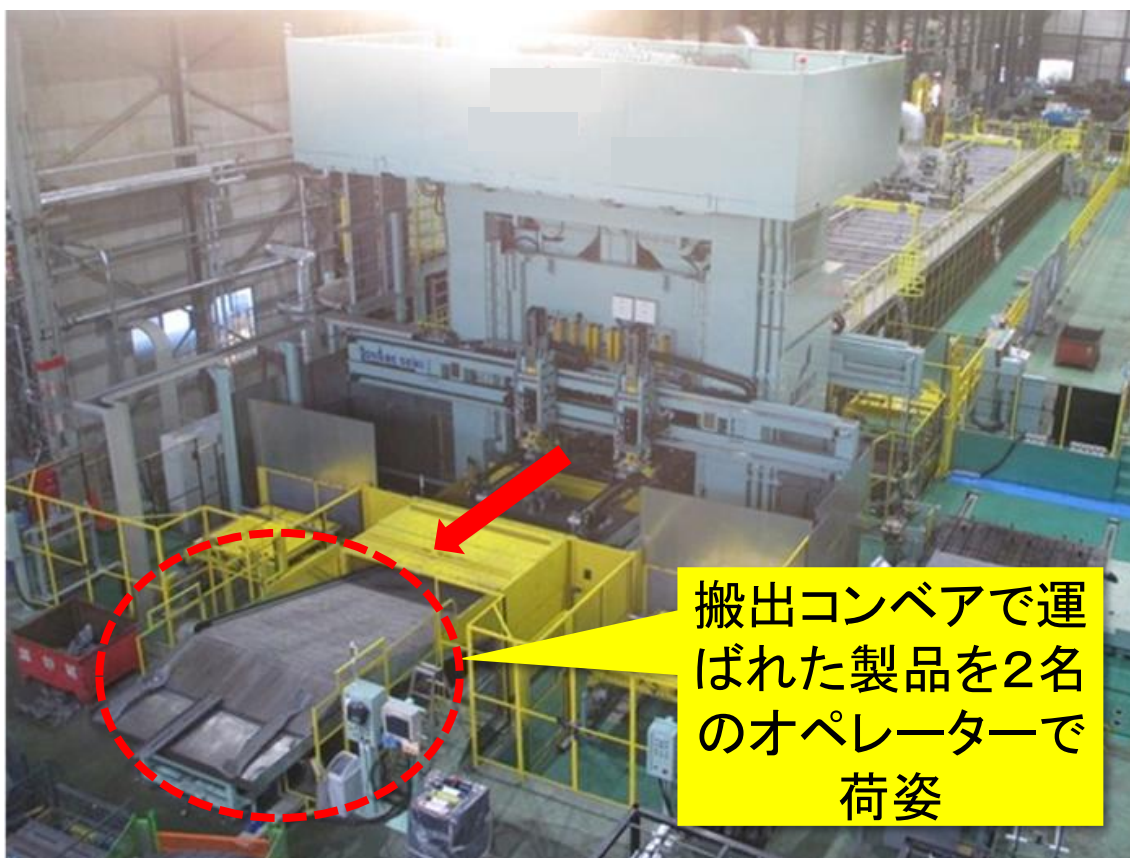
ホットスタンプの荷姿自動化



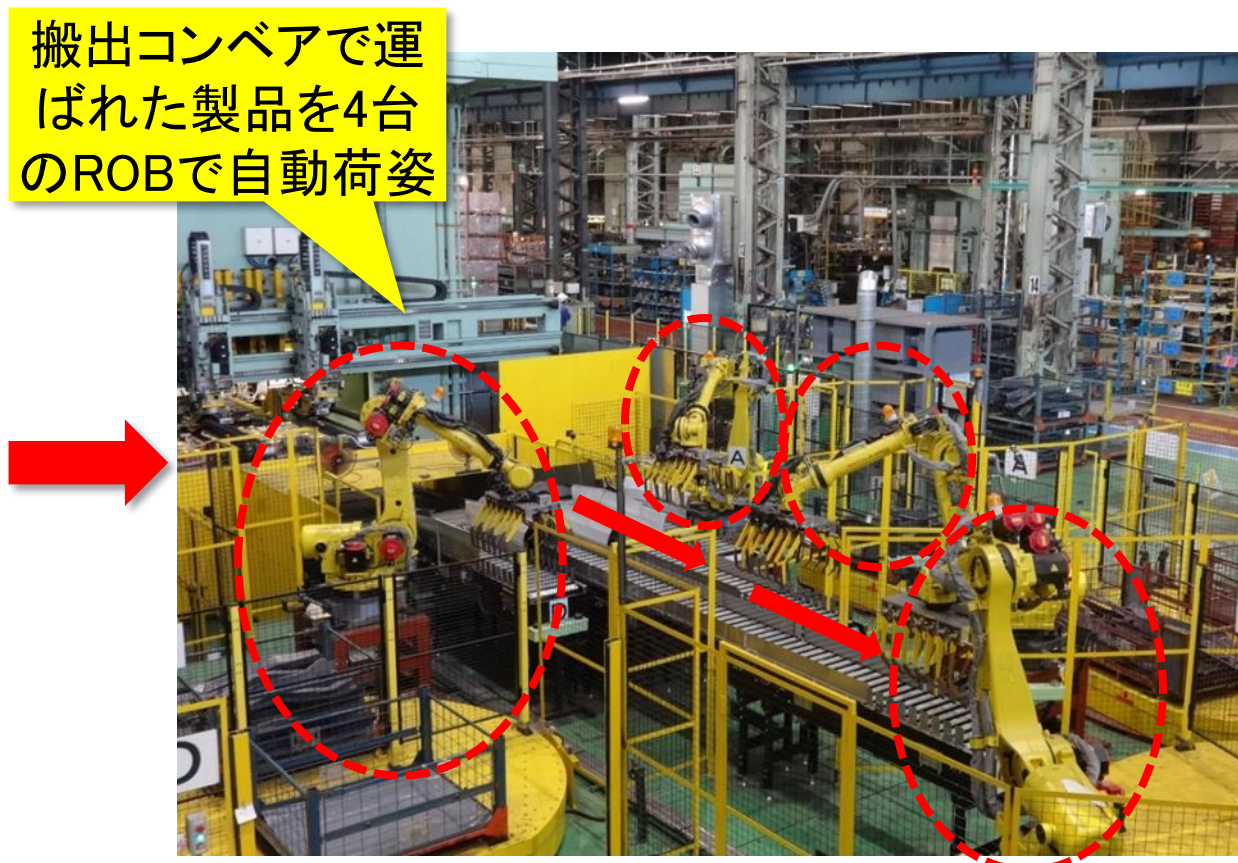
ホットスタンプの荷姿自動化①

自動荷姿による人員削減 4名⇒0名（栃木工場）

＜改善前＞ 作業者による荷姿



＜改善後＞ ロボットによる自動荷姿

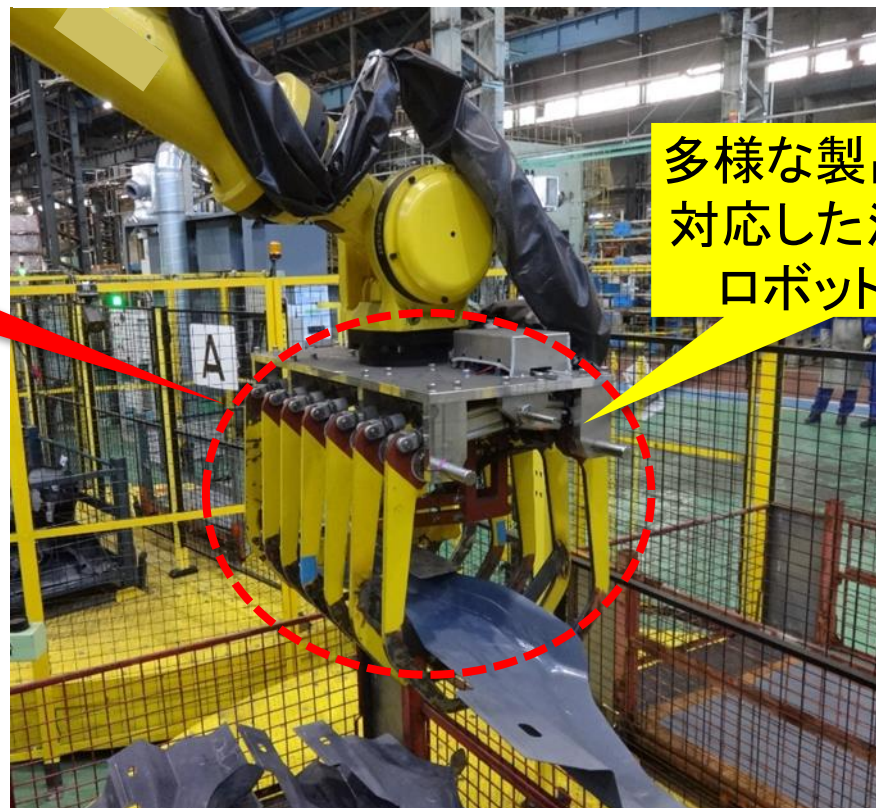


ホットスタンプの荷姿自動化②

汎用ハンドによる段取り作業レス化 30～40分/回⇒0分/回（栃木工場）

＜改善後＞ 汎用的なロボットハンド

23ユニット(型)の為、
段取レス化を狙う



多様な製品形状へ
対応した汎用的な
ロボットハンド

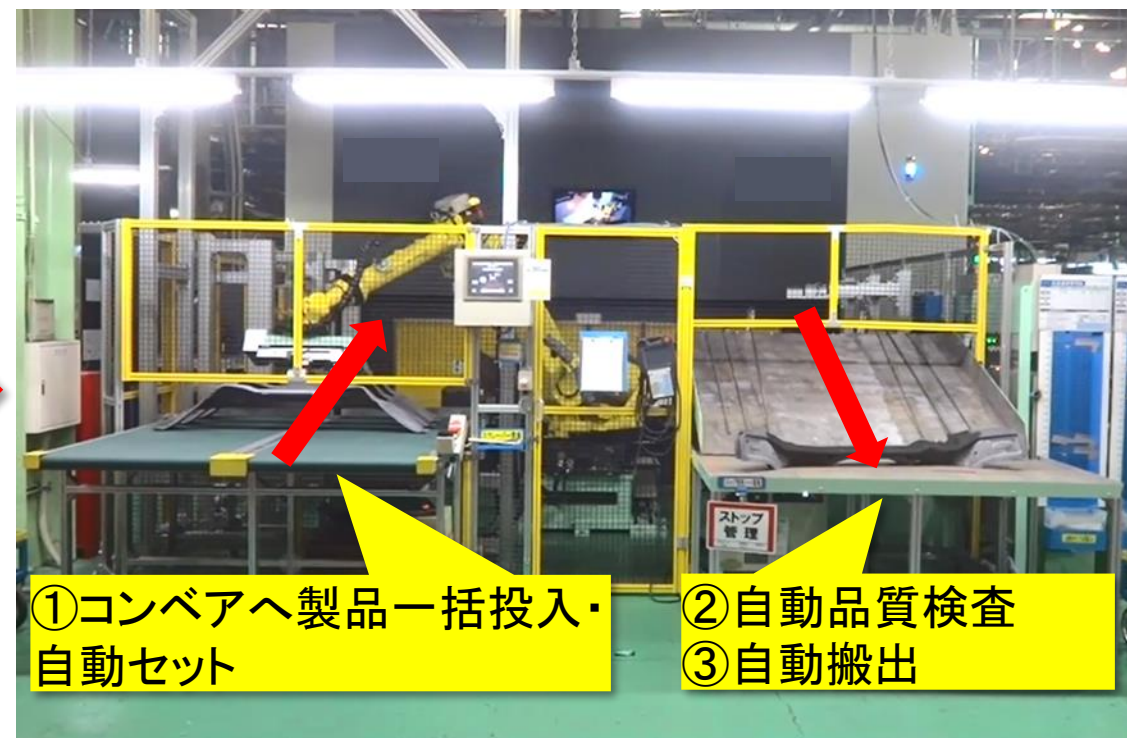
レーザー設備の自動化による人員削減 10名⇒4名(栃木工場)

＜改善前＞ 作業者による作業



- ①加工前製品セット
- ②加工後の製品品質検査
- ③製品の荷姿

＜改善後＞ ロボットによる自動化



- ①コンベアへ製品一括投入・自動セット

- ②自動品質検査
- ③自動搬出



3.サステナビリティ経営の推進

2021年度も、各拠点において得意先から技術や品質等に関する様々な賞を受賞

<2021年度得意先からの受賞歴>

受賞拠点	授与得意先	賞名
ユニプレス	日産自動車	Global Innovation Award
ユニプレス広州	日産自動車	China Regional Quality Award
ユニプレス サウスイーストアメリカ	北米日産	Outstanding Quality Performance
ユニプレス	ジャトコ	グローバル特別賞
ユニプレスタイ	ジャトコタイランド	ベストパフォーマンス賞



- ESG投資に関する代表的な株価指数である「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初選定されました。（組入開始：2021年12月）

<FTSE Blossom Japan Index とは>

- ・ 世界でも有数の歴史を持つFTSE Russell※が開発した株価
- ・ ESG評価の絶対評価が高い銘柄をスクリーニングし、最後に業種ウエイトを中立化したESG総合型指数

※FTSE Russellはロンドン証券取引所グループ（LSEG）の完全子会社であり、情報サービス部門を担う。インデックスの構築と管理において、世界をリードする独立企業。



FTSE Blossom
Japan

2022年4月に新設された
「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」
の構成銘柄にも選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2021年6月、SOMPOアセットマネジメント株式会社が設定する「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に初選定されました

■ SOMPOサステナビリティ・インデックスとは

- ・ ESGの取り組みに優れる300銘柄から構成され、毎年見直しが行われる。
- ・ SOMPOアセットマネジメント株式会社が独自のアクティブ・インデックス。
- ・ 同社の機関投資家向けの責任投資プロダクト「サステナブル運用」に活用される。



「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に2年連続認定されました

■ 健康経営優良法人 とは

- ・ 特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を
経済産業省と日本健康会議が共同で選定



サステナビリティ経営推進のため、2022年4月にサステナビリティ基本方針を制定、サステナビリティ委員会を設置

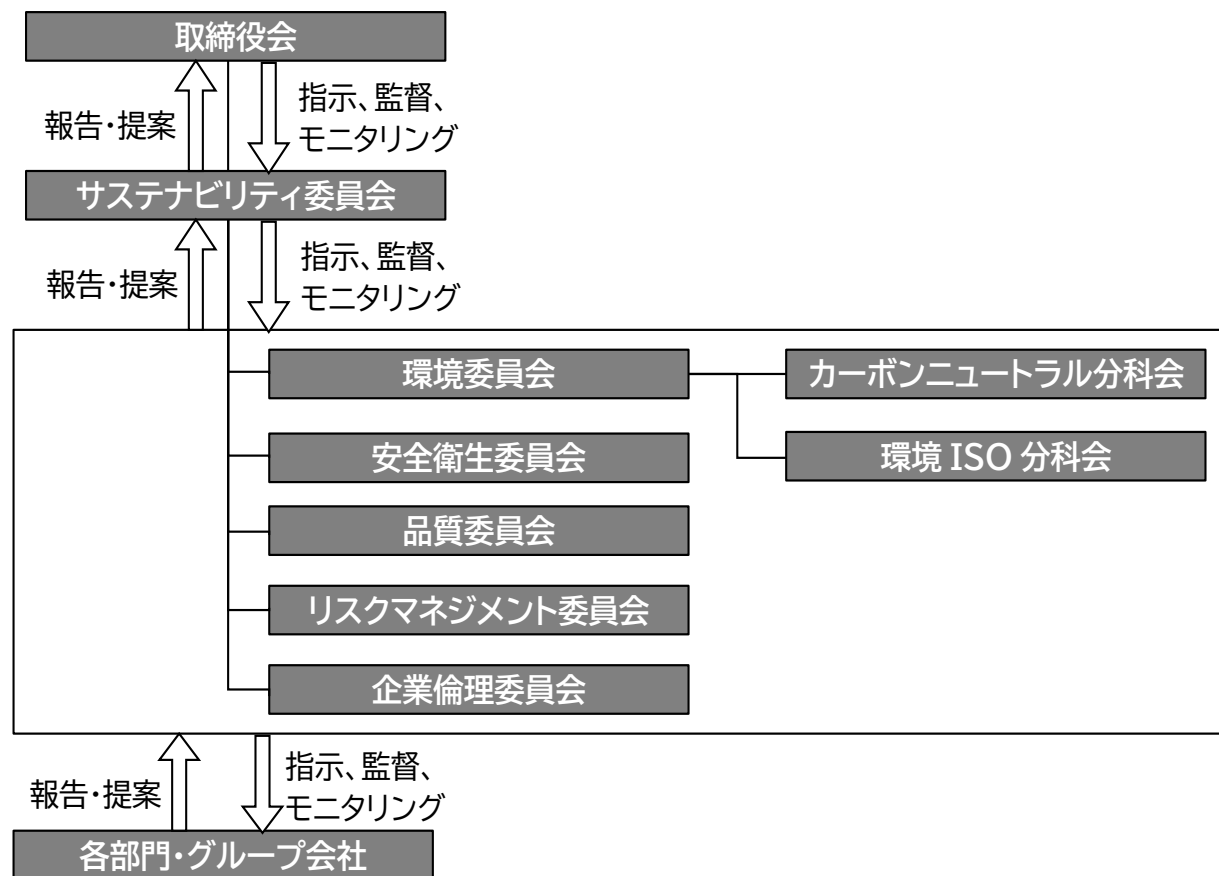
＜ユニプレスグループ サステナビリティ基本方針＞

私たちユニプレスグループは、卓越したプレス技術を通じて、環境に優しく、より安全な社会の実現に、グローバルで貢献します。

また、公正で誠実な事業活動により、ステークホルダーとの信頼関係を構築します。

その結果として、「経済的価値」と「社会的価値」の同時創出により、社会とユニプレスグループ、相互の持続的な発展を実現します。

＜サステナビリティ推進体制＞



当社は、4月4日より「プライム市場」に移行しました。



プライム市場にふさわしい企業として認識されるべく、
更なるコーポレート・ガバナンスの強化に取り組みます。



「IR情報メール配信サービス」のご案内

ユニプレスの最新情報をメールでお知らせします。ぜひご登録下さい。

スマートフォンから

二次元コードを
読み取って
登録



パソコンから

ユニプレス
WEBサイト
トップページの
バナーをクリック



一覧を見る > ピックアップ

» 株主優待

» 株価情報

» IR情報メール配信

» お問い合わせ

(円)

	2020年度 通期		2021年度 通期		2022年度 計画見通し
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	105.95	110.72	113.06	122.41	115.00
英ポンド	136.92	139.87	151.91	155.24	150.00
ユーロ	121.97	126.99	130.36	130.52	130.00
ペソ	4.96	5.20	5.42	5.59	5.50
人民元	15.42	15.89	17.13	18.07	18.00
ルピー	1.43	1.51	1.52	1.62	1.50
バーツ	3.40	3.44	3.44	3.43	3.50
ルピア	0.0073	0.0073	0.0077	0.0081	0.0080

資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。

それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- ・ 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- ・ 為替相場の大幅な変動
- ・ 金融・資本市場における金利等の変動 など